

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】
内容報告書

団体名：社会福祉法人さぼとにじゅういち

1. 事業の概要

事業名称	外国人住民・日本人住民 共育ち日本語教室展開事業 ～安全・安心を基盤に、安定と成長に向かって！～
事業の目的	<p>本事業の目的は、日本に定住する覚悟を決めた外国人住民(とくに難民)が言葉の学びを通して生活基盤を強固なものとし、個々の「成長」を目ざして日々過ごせるようになること、より多くの日本人住民・先輩外国人住民が、彼らの良き「伴走者」として成長すること、結果として、関わる全ての者たちが多文化共生社会日本の一員として共に手を携え前進していくことである。</p> <p>今後3年間を目的に、団体がこれまで得た知見、先輩外国人住民の経験、文化庁事業の成果を反映させ、「日本語教育」「人材育成」の具体的なモデルの提示、「現場で使える教材」の提供を進めていきたい。</p>
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	<p>当団体の主たる支援対象者である「難民」の場合、国での迫害を逃れ、他国に保護を求めた方々であり、まずは「在留」そのものが日本に暮らす目的である。彼らの場合、自国政府からの保護や支援は期待できない。とくに同国からの、異なるステイタスの方々と安易に接触することはできず、そのため、地域との関わりがもちにくい。そうした事情から、以下は「地域の実情」というより「難民」もしくはそれに類する方々についての実情・課題となる。</p> <p>難民の日本語学習の目的は二極化している。より細やかな手助けを必要とする「導入期の日本語習得」と、「ステップアップを図るための日本語習得」である。平成27年度事業の本欄でも記載したが、その傾向はさらに顕著になりつつある。</p> <p>これまで、当団体の支援対象者である「難民もしくはそれに類する方々」と言えば、ほとんどがミャンマー(ビルマ)出身者であった。彼らの多くは、同国人(同民族)コミュニティに属し、そのコミュニティが生活の拠り所であり、そこそこ活発な情報交換も行われている。日本での在住年数も長期化し、「仕事」「子育て」「健康」についての悩みや不安を抱えながら、今日明日の生活だけでなく、もう一歩先を見据えて、ステップアップを図ろうとする方々が増加している。そして改めて「日本語を学ばなければならない」という想いを強くしている。(同団体学習支援室受講生へのヒアリングから)</p> <p>その一方で、平成27年になって、当団体にも、コンゴ、エチオピア、シリア等、ミャンマー以外の地域出身の難民(もしくはそれに類する方々)からの、とくに日本語学習に関する相談が相次いだ。「全く英語が分からない」「外国語の学習の経験がない」「日本の生活習慣や文化の理解に困難を抱える」方々にとって、日本語の習得は容易なものではない。また、極めて困窮度も高い彼らは、その必要性は実感しながらも、日本語学習の継続に難しい状況にある。そして、大変残念なことに、複雑な事情を抱える方々の参加を歓迎しない日本語教室も少なからず存在する。</p> <p>この二極化した日本語学習のニーズに対応し、難民(もしくはそれに類する方々)が、日本語学習を通じて、希望をもって日本での生活を送れるようになるための方策を具体的に創出していくことが喫緊の課題である。</p>
事業内容の概要	<p>【1 日本語教育】 「難民のための参加型教室」として、以下の2つの講座を実施した。 1-1 「難民のための体験を通して学ぶ導入期日本語講座」 日本語教育のプロの指導者のもと、ボランティアが学習者と共に学びを深めていくことのできる日本語教室を実施した。体験を重視した参加型の学習を通じて、学習者が日本人とのコミュニケーションをおそれず、自ら考え、行動できるようになることを教室の目標とした。 ○今年度事業では、「媒介語がなく、通訳もみつけにくい地域から来た難民の方々への日本語支援の具体的な方法を共有していくこと」、「日本語教育に関心をもつ日本語専攻の大学生」や「とくに日本語教育について学んだ経験のない日本人」、「先輩外国人住民」を学習のパートナー(ボランティア)として育成すること」の2点に注力した。</p> <p>1-2 「生活力向上のためのワークショップ&座談会」の実施 平成25年度に開始した参加型講座(ワークショップ)は大きな成果をおさめ、平成27年度には新たな教材の作成にもつながり、各地域での活用が可能になりつつある。 平成28年度は、「健康」「生活知識」「安全(防犯・防災)」等をテーマに、講座を実施した。 日本語ができない外国人住民も、生活上必要な情報を知り、スキルを身につけることで、「安心」「安全」を確保し、「安定」「成長」への備えに関心をもてるようになることが期待される。 ○「N1合格者を中心とする外国人住民には準備段階から関わりをもってもらい、彼ら一人一人がコミュニティのキーパーソンとして成長すること」、「関わる行政や専門家たちが難民をはじめとする在住外国人に対して理解を深めること」が副次的効果として期待される。 ○大切な知識、情報を、より多くの外国人住民に届けるための方法を模索した。結果として「出張講座」の実施につながった。</p> <p>【2 人材育成】 「地域日本語教室ボランティアのためのパワーアップ講座」として、3つの異なるタイプの講座を実施した。 地域日本語教室の現場で、外国人住民の必要や求めに応じた活動ができるボランティアの育成を目的とする。 「生活者としての外国人」について理解を深めるための「理解を深める講座」、ボランティア教室での経験の少ない方々が、基本的な活動の姿勢などを学ぶための「スキルアップ講座」、実践力を磨くための「ブラッシュアップ講座」である。</p> <p>【3 教材作成】 導入期の学習者にとって最低限必要と思われる生活上の行為の達成を目指した『動画教材』の作成に加え、「読解教材～小さいけれど大切な日本の習慣～」「体験型講座実例集」の追加作成を行った。 ○先に述べた通り、シリアやコンゴ、エチオピア等からの学習者に関わるようになり、改めて対応可能な教材が何もないことを認識したことから、その対応が急務と判断し、導入期用の動画教材の作成を決めたが、その方向性の検討に時間を要した。次年度以降の同種の作品の検討のため、2種の方向性の異なる動画教材を作成した。 ○平成27年度当初の3か年の計画を4か年へと変更し、平成30年度を目的に、数種の異なるタイプの教材の完成を目指している。</p>
事業の実施期間	平成28年4月～平成29年3月 (12か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	高橋 敬子	(社福)さぼうと21
2	岩田 一成	聖心女子大学日本語日本文学科
3	鶴川 晃	大正大学人間学部 人間環境学科
4	奥原 淳子	早稲田大学日本語教育研究センター他
5	久保田 雅文	(特非)難民を助ける会(AAR Japan)
6	長崎 清美	日本語教師(フリーランス)
7	長島 みどり	(社福)さぼうと21
8	矢崎 理恵	(一財)日本国際協力センター他 (社福)さぼうと21
9	LIA CING LAM MANG	(公財)アジア福祉教育財団・難民事業本部
10	前田 レジーヌ	通訳・翻訳業(フリーランス) 国際子育ての会「ばんびーに」



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年7月29日(金) 18:00~20:00	2時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	高橋敬子・岩田一成・鶴川晃・奥原淳子・久保田雅文・長崎清美・LIA CING LAM MANG・前田レジーヌ・矢崎理恵・長島みどり	1. 運営委員紹介 2. 各取り組みの方針、実施時期、内容等検討 ⇒取り組みごとの担当者を決定し、小委員会を中心に進めていくことを決定 3. 作成教材の方向性を検討 ⇒動画教材の新たなシリーズを展開するために方向性の異なる作品を作ってみること、これまで蓄積してきている教材の追加作成を行う方向でさらに検討することを決定
2	平成29年3月18日(土) 11:30~14:00	2.5時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	高橋敬子・鶴川晃・奥原淳子・LIA CING LAM MANG・前田レジーヌ・矢崎理恵・長島みどり	1. 事業全体の振り返り 2. 動画教材の視聴と意見交換 3. 次年度以降の取組について

(2) 事業の実施体制

運営委員会: 高橋敬子(運営委員長=全体総括・予算執行者)

↓

★ 矢崎理恵(全体コーディネーター) → 事務局 長島みどり(主に広報、事務担当) ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 関連団体

↓

運営委員は事業全体についての検討を行うとともに、年度内に1回以上の見学を行う。

※ 以下、★はコーディネーター、☆は副コーディネーターを指す

「日本語教室検討小委員会」
(★矢崎理恵・☆奥原淳子・田中美穂子(後期のみ)・ディラン恵子(指導者)・中島恵美(アシスタント・前期のみ))

「ワークショップ検討小委員会」
(★矢崎理恵・☆長島みどり・高橋敬子・LIA CING LAM MANG)

「人材育成検討小委員会」
(★奥原淳子・☆長崎清美・☆岩田一成・矢崎理恵)

「動画教材作成検討小委員会」
(★伴野崇夫・☆矢崎理恵・インタナショナル映画株式会社 新津伊織)

(3) 地域における連携体制

■ 地域の日本語教育関係団体: 当団体は東京日本語ボランティアネットワーク(TNVN)の会員である。人材育成の講座実施を通じて、地域の日本語教室とのネットワークが少しずつ構築されつつある。

■ 地域の国際交流関連団体: 品川区(国際課)、東京都国際交流委員会、東京ボランティア・市民活動センター、(財)自治体国際化協会とも情報交換を密に行っている。また、本年度のワークショップ実施を通じて、公益財団法人いわき市国際交流協会との新たな連携体制もスタートした。

■ 大学等: 聖心女子大学(学生団体SHRETからのボランティア受け入れ)、大正大学(実習生の受け入れ)、明治学院大学(情報交換、セミナー実施の際の協力)

■ 難民支援関連団体: 特定非営利活動法人なんみんフォーラムFRJの参加団体として、他の難民支援団体とも協力体制にある。

アジア福祉教育財団難民事業本部とは特に難民の方々の日本語学習に関して随時情報交換を行い、相互の活動の円滑化を図っている。また、社会福祉法人日本国際社会事業団とは、本年度のワークショップ実施を通じて、より良い連携体制を構築することができた。

■ その他、以下の団体とは、ここ数年のワークショップ実施により、連携体制がとれるようになった。
うさぎママのパトロール教室、高田馬場さくらクリニック、(株)東京ソワール、NPO法人プラス・アーツ、ワーカーズ・コレクティブ生活クラブFPの会

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:体験を通して学ぶ導入期日本語講座(春夏講座)】									
目的・目標	<p>・生活者としての外国人である受講者(難民)が日常生活において最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行える(または、行えるという意識がもてる)ようになること。あわせて、日本社会の一員としての権利や義務を理解した上で、各人が日本社会の一員であるという意識を高め、日々の生活の豊かさを求める姿勢がもてるようになること</p> <p>・ボランティアで参加する日本人住民が、教室での活動を通じて、外国人住民への理解を深め、コミュニケーション力を向上させ、教室での学びを日々の生活に生かして、外国人住民と共に暮らす日常を楽しめるようになること</p> <p>※今年度事業では、「媒介語がなく、通訳もみつけにくい地域から来た難民の方々への日本語支援の具体的な方法を共有していくこと」、「日本語教育に関心をもつ日本語専攻の大学生」や「とくに日本語教育について学んだ経験のない日本人」、「先輩外国人住民」を学習のパートナー(ボランティア)として育成することの2点に注力した。</p>								
対象	東京近郊に在住する難民で、日本語でのコミュニケーションがほとんどできない人								
取組の内容	<p>・以下のような体験を達成することを目標として掲げ、その達成の過程で日本語の表現を学び、日本語でのやりとりを実際に経験していく</p> <p>「自己紹介」「防災センター見学」「トライ日本の味」「街歩き」「おしゃべりタイム」など</p>								
実施期間	平成28年5月14日～平成28年9月24日 ※10月1日 ヒアリング等			曜日・時間帯			原則として 土曜日(13:00～16:10)		
開催回数	全60.5時間 (1回3時間×19回 3.5時間×1回)			開催場所			にほんごタウン		
参加者	総数 8人+ボランティア (日本語学習者 7人、指導者 1人) ※必要に応じて「指導補助者」配置			使用した教材・リソース			・『はじめの500語』(当会作成教材) ・『あいうえおのれんしゅう』『アイウエオのれんしゅう』(当会作成教材) ・『体験型講座実例集』(当会作成) ・講師作成教材		
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カリキュラム案活用	「カリキュラム案で扱う生活上の行為」をもとに全体の授業を構成する。講座内容検討にあたり、「ガイドブック」や「教材例集」を参考にしている。「日本語能力評価について」「指導力評価について」は、今回の取り組みの中で「わたしと日本語シート」「日本語力判定」の際に参考とした。								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名	
1	平成28年5月14日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	4人	VII-14(31) 人と付き合う ●オリエンテーション ●自己紹介をしよう	【目標項目】 自己紹介ができる。 1～12の数字が読める。 『～時』『～時半』が言える。 『これは何ですか』と質問ができる。 【文字】 3グループに分かれて実施 A:漢字 B:ひらがな あ行～さ行読み書き C:『促音』『拗音』『長音』の読み確認、カタカナ ア行～カ行	ディラン恵子	※ボランティア 2人	
2	平成28年5月21日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	3人	★ VII-14(31) 人と付き合う ★ I-01(02)(03) 薬を利用する 健康に気をつける ●「症状を説明しよう」 ●「欠席の連絡をしよう」	【目標項目】 体の部位の名前がわかる。 簡単なことばで症状が言える。 欠席の連絡ができる。 薬の用法の簡単な漢字がわかる。 【文字】 A:漢字(書き順) B:カタカナ ア行～カ行復習、サ行～タ行	ディラン恵子	※ボランティア 3人	
3	平成27年5月28日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	2人	VII-14(31) 人と付き合う I-01(01)(03) 医療機関で治療を受ける 健康に気をつける ●「症状を説明しよう」 ●「欠席の連絡をしよう」	【目標項目】 体の部位の名前がわかる。 症状のことばが使える。 歯科のことばがわかる。 欠席の電話がかけられる。 ※復習、歯科のことばがわかる。 【文字】 漢字	ディラン恵子	※ボランティア 1人	
4	平成28年6月4日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	3人	VII-14(31) 人と付き合う I-01(01)(03) 健康を保つ 健康に気をつける ●「病院に行けるようになるろう」 ●「健康に気をつけよう」	【目標項目】 病院での医師の指示がわかる。 症状によって病院のどの科にかかるかがわかる。 食品の賞味期限がわかる。 文法学習 (医師の指示『～てください』『～てもいいですか』の文型を理解して、例文を作ることができる。 【文字】 A:漢字 B:カタカナ ア行～タ行※復習、ナ行、ハババ行	ディラン恵子	※ボランティア 2人	

5	平成28年6月11日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	5人	<p>VII-14(31) 人と付き合う I-01(01) 医療機関で治療を受ける</p> <p>●「自分の国の料理の作り方を説明しよう」 ●「自分の気持ちを伝えよう」 ●「欠席の連絡をしよう」</p>	<p>【目標項目】 気持ちを表す表現がわかる。気持ちを表す表現を使って自分のことが話せる。 自分の国の料理について簡単な作り方の説明ができる(ミャンマー)。 自己紹介ができる。 欠席や遅刻の電話ができる。 ※復習 【文字】A:漢字 B:カタカナ マ行～ヤ行 C:ひらがなの読み(1～8までの数字)</p>	ディラン恵子	ボランティア2人
6	平成28年6月18日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	4人	<p>VII-14(31) 人と付き合う VIII-15(34) 住民としてのマナーを守る</p> <p>●「リサイクルのマークを知ろう」</p>	<p>【目標項目】 リサイクルのマークがわかる。 自分のできることからリサイクルを始めようという気持ちになる。 文法の『～ないでください』の意味がわかり、使えるようになる。 『トライ日本の味』でどんな料理を作ってみたいか話し合う。 味のことがわかる。 【文字】A:漢字 B:カタカナ ラ行 C:ひらがなの読み(1～8までの数字)※復習</p>	ディラン恵子	※ボランティア3人
7	平成28年6月25日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	5人 (見学1人)	<p>VII-14(31) 人と付き合う VIII-15(34) 住民としてのマナーを守る</p> <p>●「熱中症を予防しよう」 ●「漢字の読みと意味を聞いてみよう」</p>	<p>【目標項目】 疑問詞の使い方がわかり、日本人に質問することができる。 町や駅で見かけるサイン、漢字の読み方と意味を質問することができる。 熱中症とその予防について知る。 【文字】A:漢字 B:カタカナ C:ひらがな(1～8までの数字の復習、「もも」など同じ音がつく言葉)</p>	ディラン恵子	※ボランティア2人
8	平成28年7月2日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	4人	<p>VII-14(31) 人とつきあう VIII-15 社会のルール・マナーを守る</p> <p>●「町のマークを知ろう」</p>	<p>【目標項目】 日本人の身振り、手振りの意味がわかる。 自国の身振り、手振りなどが説明できる。 簡単な形容詞がわかる。 文法『～てはいけません』『～と思います』『～と言います』が使える。 『禁』『注意』の漢字の意味がわかる 【文字】漢字</p>	ディラン恵子	※ボランティア2人
9	平成28年7月9日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	6人	<p>VII-14-(31) 人と付き合う IX-20-(44) 余暇を楽しむ III-05-(08) 物品購入</p> <p>●「日本と自分の国の違いを説明しよう」 ●「買い物しよう」</p>	<p>【目標項目】 ケーキのレシピを読んで理解できる。 自分の国と日本の習慣の違いを説明できる。 簡単な助数詞がわかる。(ひとつ～とおまで数えることができる。) ケーキの材料の買い方がわかる。 『～ましょう』と『～ましょうか』の使い分けがわかる。 【文字】A:漢字 B:カタカナ C:ひらがな</p>	ディラン恵子	※ボランティア2人
10	平成28年7月16日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	6人	<p>VII-14(31) 人とつきあう VIII-16(35) 地域社会に参加する IX-20(44) 余暇を楽しむ</p> <p>●「炊飯器でケーキを作ろう」 ●「夏祭りを知ろう」</p>	<p>【目標項目】 夏祭りについて知る。 余暇にできることを楽しむ。 炊飯器のケーキが作れる。(料理の言葉がわかる) 『辞書形+と』の文型がわかり、例文が作れる。(町の中の場所のことは(橋、病院、駅、信号)がわかる) 【文字】漢字</p>	ディラン恵子	※ボランティア2人

11	平成28年7月23日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	5人	VII-14(31) 人と付き合う X-21(45) 郵便・宅配便を利用する (46) インターネットを利用する III-05(08) 物品購入 ●「インターネットで検索しよう」 ●「郵便局で買い物しよう」	【目標項目】 簡単な受け答えの『ひとこと会話』が使える。 インターネットで路線などの検索ができる。(路線のことは(出発地、到着地、始発、終電)) 郵便局でできること、買えるものを知って、教師に頼まれたものを郵便局で購入することができる。(郵便のことは(はがき、封筒、切手、現金書留)がわかる) 【文字】漢字	ディラン恵子	※ボランティア 2人
12	平成28年7月30日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	5人	X-21(46) インターネットを利用する X-21(45) 郵便を利用する I-02(05) 災害に備え、対応する(地震) ●「暑中見舞いのはがきを書こう」 ●「インターネットでペンきょうしてみよう」 ●「災害・防災について知ろう」	【目標項目】 インターネットを使って日本語の勉強をする方法がわかる。 暑中見舞いのはがきを書ける。 地震の時にどうしたらいいかを学ぶ。 災害の備えについて学ぶ。(災害に関する言葉(かみなり、台風、津波、停電)、防災に関する言葉(非常持出袋、防災袋、懐中電灯、ヘルメット)がわかる) グループ1動詞の可能形の作り方がわかる、可能形の文が作れる。 【文字】漢字	ディラン恵子	※ボランティア 2人
13	平成28年8月6日(土) 12:30-16:00	3.5	池袋防災館 他	3人	I-02(05) 災害に備え、対応する IV 目的地に移動する VIII-16 地域社会に参加する ●「防災について体験してみよう」 ●「地域の建物・イベントを見てみよう」	【目標項目】 防災館の見学を通して 地震、火事の時の対応、避難の方法を学ぶ。 体験学習に参加して実際にやってみる。 約束の時間に約束の場所に着くことができる。 町を歩く(芸術劇場の見学、お祭りへの参加)	ディラン恵子	ラッシーロイサン ※ボランティア 2人
14	平成28年8月13日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	5人	III-05(08) 物品購入・サービスを利用する 06 お金を管理する ●「日本料理について知ろう」 ●「買い物しよう」	【目標項目】 日本料理の基本を学ぶ。(調味料の名前、使い方がわかる) 次週の実習の手巻き寿司の具について学ぶ(食材の名前がわかる)。 各自手巻き寿司に入れてみたい具を選ぶ。 材料費を集める。 買い物に行く。 【文字】A:漢字 B:ひらがな	ディラン恵子	植木ちず ボランティア1名
15	平成28年8月20日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	3人	VII-14(31) 人と付き合う IX 自身を豊かにする ●「日本料理を作ってみよう」 ●「作った料理のレシピを書こう」	【語彙】食器・調理器具(包丁、まな板、もり皿、とり皿、箸置き) 【目標項目】指示を受けながら、皆で日本の料理を作ってみる。手巻き寿司の作り方がわかる。和食器の名前がわかる。各自、好きな手巻き寿司のレシピを書いてみる。日本語で会話を楽しみながら食事ができる。	ディラン恵子	植木ちず ボランティア1名
16	平成28年8月27日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	4人	VII-14(31) 人と付き合う IX-20-(44) 余暇を楽しむ ●「日本の文化を体験しよう」	【目標項目】 茶道を体験してみて、これから日本人からの誘いを受けた時に怖がらずに参加できる。 今まで学習してきた漢字を毛筆で書いてみる。 浴衣を着てみる。 日本文化に関することは(茶道:抹茶、茶筌等/浴衣:帯、浴衣等/書道:筆、墨、半紙等)がわかる 【文字】A:漢字	ディラン恵子	※ボランティア 2人
17	平成28年9月3日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	3人	VII 14-(31) 人と付き合う ●「ミニスピーチを試してみよう」 ●「日本人と日本語でやりとりしよう」	【目標項目】 次週のおしゃべりタイムのパートナーへの質問を考える。(「家族は何人ですか?」「今ほしいものはありますか?」等、練習) ミャンマーの習慣についてのスピーチを練習する。 おしゃべりタイムでの会話が広がるように何を準備すればいいかを考える。 【文字】漢字	ディラン恵子	※ボランティア 1人

18	平成28年9月10日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	3人	VII 他者との関係を円滑にする (31) 人と付き合う ●「ミニスピーチを試みよう」 ●「日本人と日本語でやりとりをしよう」	【目標項目】おしゃべりタイムのパートナーとの会話を楽しむことができる。パートナーに質問したいことを聞くことができる。 どんな修了式にするか話し合ってみよう。 【文字】漢字	ディラン恵子	※ボランティア1人
19	平成28年9月17日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	2人	IV 目的地に移動する VII 人と関わる ●「駅のアナウンスを理解しよう」 ●「修了式の準備(スピーチ・歌)をしよう」	【目標項目】駅のアナウンスがわかる。電車や駅でのトラブル(忘れ物、線路上に落とし物など)の時に駅員に説明、依頼ができる。 修了式の準備(日本の歌、スピーチ) 【文字】漢字	ディラン恵子	※ボランティア2人
20	平成28年9月24日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	4人	VII 人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする ●「修了式をしよう」 ●「パーティをしよう」	【目標項目】修了式を学習者全員で作りに上げる。修了スピーチができる。 修了式に参加して下さる人々との会話を楽しまう。 パーティのためのミャンマーの料理の材料や作り方を紹介することができる。 【文字】漢字	ディラン恵子	※ボランティア2人

日本語教育の実施【活動の名称:体験を通して学ぶ導入期日本語講座(秋冬講座)】

目的・目標	<p>・生活者としての外国人である受講者(難民)が日常生活において最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行える(または、行えるという意識がもてる)ようになること。あわせて、日本社会の一員としての権利や義務を理解した上で、各人が日本社会の一員としての意識を高め、日々の生活の豊かさを求める姿勢がもてるようになること</p> <p>・ボランティアで参加する日本人住民が、教室での活動を通じて、外国人住民への理解を深め、コミュニケーション力を向上させ、教室での学びを日々の生活に生かして、外国人住民と共に暮らす日常を楽しめるようになること</p> <p>※今年度事業では、「媒介語がなく、通訳もみつけにくい地域から来た難民の方々への日本語支援の具体的な方法を共有していくこと」、「日本語教育に関心をもつ日本語専攻の大学生」や「とくに日本語教育について学んだ経験のない日本人」、「先輩外国人住民」を「学習パートナー」(ボランティア)として育成することの2点に注力した。</p>								
対象	東京近郊に在住する難民で、日本語でのコミュニケーションがほとんどできない人								
取組の内容	<p>・以下のような体験を達成することを目標として掲げ、その達成の過程で日本語の表現を学び、日本語でのやりとりを実際に経験していく</p> <p>「自己紹介」「防災センター見学」「トライ日本の味」「街歩き」「おしゃべりタイム」など</p>								
実施期間	平成28年10月15日～平成29年9月24日 ※3月18日 ヒアリング等				曜日・時間帯		原則として 土曜日(13:00～16:10)		
開催回数	全60時間 (1回3時間 ×20回)				開催場所		にほんごタウン		
参加者	<p>総数 9人+ボランティア (日本語学習者 7人、指導者 1人)</p> <p>※必要に応じて「指導補助者」配置</p>				使用した教材・リソース		<p>・『はじめの500語』(当会作成教材)</p> <p>・『あいうえおのれんしゅう』『アイウエオのれんしゅう』(当会作成教材)</p> <p>・『体験型講座実例集』(当会作成)</p> <p>・講師作成教材</p>		
出身・国内別訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ミャンマー(5人)、エチオピア(1人)、レバノン(1人)、チュニジア(1人)、シリア(1人)								
カリキュラム案活用	「カリキュラム案で扱う生活上の行為」をもとに全体の授業を構成する。講座内容検討にあたり、「ガイドブック」や「教材例集」を参考にしている。「日本語能力評価について」「指導力評価について」は、今回の取り組みの中で「わたしと日本語シート」「日本語力判定」の際に参考とした。								

日本語教育の実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成28年10月15日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	6人	VII 人とかわる 14 他者との関わりを円滑にする(31) 人とつきあう ●オリエンテーション ●「自己紹介をしよう」	【目標項目】 自己紹介ができる。 自分の名前がカタカナで書ける。 日本の秋の食べ物の名前がわかる。 クラスのやり方を理解し、自分のファイルで宿題や資料を管理できる。 【文字】漢字	ディラン恵子	※ボランティア 2人
2	平成28年10月22日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	7人	(31)人とつきあう ●「自己紹介をしよう」 ●「欠席の連絡をしよう」	【目標項目】 (先週の自己紹介にプラスして)自分の誕生日と来日した日が言える。 (先週の家族の人数紹介にプラスして)家族の呼び方がわかる。 事務所に欠席の電話がかけられる。 簡単な病状、欠席の理由が言える。 【文字】漢字 ※単語帳(わからない表現などを書き入れるノート)を配布	ディラン恵子	※ボランティア 2人
3	平成28年10月29日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	6人	VII-14-(31)人と付き合う ●「自己紹介をしよう」 ●「簡単なやりとりを楽しもう」	【目標項目】 自分の国の有名な場所、有名な物、おいしい食べ物、飲み物などが紹介できる。 動詞リスト(1)の動詞を使って互いに簡単なQAができる。 【文字】漢字	ディラン恵子	なし
4	平成28年11月5日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	4人	VII 人と関わる 14 他者との関係を円滑にする IV 目的地に移動する(12) 徒歩で移動する III 消費活動を行う ●「街歩きを楽しもう」	【目標項目】 次週の「街歩き」の準備 ファーストフード店の店員のことがわかる。ファーストフード店でほしい物が注文できる。 交番で道を尋ねることができる。 店内で行きたい売り場が何階にあるか、聞くことができる。 道順を示す簡単な語彙がわかる。 【文字】漢字	ディラン恵子	※ボランティア 2人
5	平成28年11月12日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	5人	III 05 物品購入・サービスを利用する IV 08 (12) 徒歩で移動する ●「街歩きを楽しもう」 ●「ファーストフード店に行ってみよう」	【目標項目】 ファーストフード店での注文ができ、店員の日本語がわかる。 交番でスーパーへの行き方を尋ねることができる。 店内で買いたい物がどこにあるかを尋ねることができる。 【文字】漢字	ディラン恵子	ボランティア2人
6	平成28年11月19日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	6人	I 健康・安全に暮らす 01 健康を保つ (01) 医療機関で治療を受ける(02) 薬を利用する ●「症状を説明しよう」 ●「欠席の連絡をしよう」	【目標項目】 体の部位の名前がわかる。 病状が言える。 病院へ行ける。 欠席の電話(復習)、遅刻の電話がかけられる。 【文字】漢字	ディラン恵子	※ボランティア 2人
7	平成28年11月26日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	5人	I 健康・安全に暮らす 01 健康を保つ (01) 医療機関で治療を受ける(02) 薬を利用する ●「薬局へ行ってみよう」	【目標項目】 医者への指示することばの意味がわかる。 体の部位(頭、腹、目、鼻、歯)の漢字がわかる。『痛』『止め』『風邪』『薬』『熱』の漢字がわかる。 薬の箱に書かれている漢字やイメージなどで何の薬かわかる。 ドラッグストアで症状を説明し、薬を覚えてもらうことができる。 【文字】漢字	ディラン恵子	※ボランティア 2人
8	平成28年12月3日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	5人 (見学1人)	I 健康・安全に暮らす (01) 医療機関で治療を受ける (02) 薬を利用する (03) 健康に気をつける ●「病院へ行けるようになろう」	【目標項目】 薬袋に書かれた薬の飲み方がわかる。 それぞれの診療科の名前とその意味がわかる(どんな症状の時に何科を受診すればいいかわかる)。 病院の検査の名前がわかる(血圧、血液、尿、検便、レントゲン、問診、MRIなど)。 簡単な問診票の書き方がわかる。 【文字】A:漢字 B:ひらがな、カタカナ	ディラン恵子	※ボランティア 2人

9	平成28年12月10日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	6人	VII 人とかわる (31)人と付き合う ●「自分の気持ちを伝えよう」	【目標項目】 感情のことがわかる。感情のことが使える。 【文字】A:漢字 B:ひらがな	ディラン恵子	※ボランティア 1人
10	平成28年12月17日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	6人	VIII 社会の一員となる ●「お正月を楽しもう」	【目標項目】 日本のお正月の習慣がわかる。自国のお正月の習慣について簡単に話す事ができる。 年賀状を書いてみる。 さぼうと21の『年忘れランチ』のチラシの内容を読み、理解して、申し込み用紙に記入する。 【文字】A:漢字 B:ひらがな	ディラン恵子	※ボランティア 3人
11	平成28年12月24日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	4人	VII 人とかわる(31)人と付き合う ●「新しい年を迎えよう」 ●「一言会話を楽しもう」	【目標項目】 さぼうとのパーティに参加し、作ってきたものの作り方の簡単な説明ができる。 日本人と『一言会話』ができる。 2016年を振り返り、来年の目標を考える。 【文字】漢字	ディラン恵子	※ボランティア 1人
12	平成29年1月7日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	3人	I 健康、安全に暮らす 02 安全を守る (05)災害に備え、対応する ●「お正月を楽しもう」●「災害・防災について知ろう」	【目標項目】 年始のあいさつができる。 日本人のお正月の過ごし方について質問ができる。 文法『～ないてください』の作り方がわかる。非常持ち出し袋の中味を知って、自分の袋に何が必要か考える。 災害のことがわかる。救急車の呼び方がわかる。 次週見学予定の防災館のチラシを見て、そこでの体験について知る。 防災館への行き方がわかる。 迷った時の質問の仕方がわかる。 【文字】A:漢字 B:カタカナ	ディラン恵子	なし
13	平成29年1月14日(土) 13:00-16:10	3.5	池袋防災館 他	6人	I-02(05) 災害に備え、対応する IV 目的地に移動する VIII-16 地域社会に参加する ●「防災について体験してみよう」	【目標項目】 防災館まで自力で行く。 防災について学ぶ。 防災館の案内の方の指示に従って災害時の対応を学ぶ。 ※『おしゃべりタイム』について理解する。	ディラン恵子	ラッシー ロイサン
14	平成29年1月21日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	4人	III 消費活動を行う 05(物品購入する) 06お金を管理する IX 自身を豊かにする ●「日本料理について知ろう」 ●「買い物しよう」	【目標項目】 日本料理の基本の調味料を知る。 次週作る『手巻き寿司』と『味噌汁』はどんなものかがわかり、各自、どんな食材を入れたいか、話し合う。 会計を決め、お金を集めて、買い物に行く。 基本の出し汁とすし酢の作り方がわかる。 塩昆布を使って簡単な漬け物を作ってみる。 【文字】漢字	ディラン恵子	植木ちず ボランティア1名
15	平成29年1月28日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	5人	VII 人と関わる 14 他者との関係を円滑にする IX 自身を豊かにする 20 余暇を楽しむ ●「日本料理を作ってみよう」 ●「作った料理のレシピを書こう」	【目標項目】 手巻き寿司と味噌汁を作ってみる。 会話を楽しみながら、食事ができる。 お好みの手巻き寿司の作り方を書いてみる。 和食器の名前がわかる。 2月18日実施予定のおしゃべりタイムで行うスピーチの下書きを作る。 【文字】漢字	ディラン恵子	植木ちず ボランティア1名
16	平成29年2月11日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	3人	VII 人と関わる (31)人と付き合う ●「ミニスピーチを試してみよう」 ●「日本人と日本語でやりとりしよう」	【目標項目】 『おしゃべりタイム』の『ミニ文化紹介』の原稿を書く。練習する。 『おしゃべりタイム』の質問を考えて質問シートに書き入れる。練習する。 【文字】漢字の復習	ディラン恵子	※ボランティア 2人

17	平成29年2月18日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	5人	<p>VII 人と関わる 14 他者との関係を円滑にする</p> <p>VIII 社会の一員となる 15 地域・社会のルール・マナーを守る</p> <p>●「ミニスピーチを試みよう」</p> <p>●「日本人と日本語でやりとりをしよう」</p> <p>●「リサイクルをしよう」</p>	<p>【目標項目】</p> <p>『おしゃべりタイム』の『ミニ文化紹介』の練習をする。(自分の国と日本の文化の違いを紹介することができる)</p> <p>『おしゃべりタイム』の質問を考えて練習する。</p> <p>リサイクルの仕方がわかる。</p> <p>【文字】A:漢字 B:カタカナ</p>	ディラン恵子	※ボランティア 1人
18	平成29年2月25日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	6人	<p>VII 人と関わる 14 他者との関係を円滑にする</p> <p>VIII 社会の一員となる 15 地域・社会のルール・マナーを守る</p> <p>●「ミニスピーチを試みよう」</p> <p>●「日本人と日本語でやりとりをしよう」</p>	<p>【目標項目】</p> <p>日本人とのおしゃべりを楽しむ。</p> <p>自分の国を紹介することができる。</p> <p>自分の国と日本の文化の違いを話すことができる。</p> <p>修了式のスピーチの準備をする。</p> <p>【文字】A:漢字 B:カタカナ</p>	ディラン恵子	なし
19	平成29年3月4日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	4人	<p>VII 人と関わる 14 他者との関係を円滑にする</p> <p>IV 07 (10) 電車、バスを利用する</p> <p>VIII 社会の一員となる 15 社会のルール・マナーを守る</p> <p>●「駅のアナウンスを理解しよう」</p> <p>●「修了式の準備(スピーチ・歌)をしよう」</p>	<p>【目標項目】</p> <p>修了式のスピーチを完成する。</p> <p>駅のことばがわかる。</p> <p>どんな修了式にしたいか話し合う。</p> <p>【文字】漢字</p>	ディラン恵子	なし
20	平成29年3月11日(土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	3人	<p>VII 人と関わる(31) 人と付き合う</p> <p>IX 自身を豊かにする(44) 余暇を楽しむ</p> <p>●「修了式をしよう」</p> <p>●「パーティを楽しもう」</p>	<p>【目標項目】</p> <p>自分たちの修了式を行う。</p> <p>日本語でスピーチができる。</p> <p>修了式のお客様との会話を楽しむ。</p> <p>日本語のゲームができる。</p> <p>日本語の歌が歌える。</p> <p>【文字】ひらがな・かたかなゲーム</p>	ディラン恵子	※ボランティア 3人

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【大目標】「トライ日本の味」と称した「日本料理をつくる」ための一連の体験を通して、日本語でのやりとりや生活上必要とされる様々な行為ができるようになること。体験を共有することで、日本語でのやりとりの意欲を向上させること。

【秋冬講座 第14回 平成29年1月21日】

■目標 「日本料理について知ろう」「買い物しよう」

■受講者側からみた授業の流れ (毎回実施する「動詞活用シャドウイング」などの後)

(1) 次週の『トライ、日本の味』について説明を聞き、日本料理の基本的調味料について説明を聞き、理解する。

(2) 会計係を決めて、会費を集める。

(3) 食材のプリントを読みながら、手巻き寿司の具材として入れたいものを1人2品ずつ選び、カードに書き入れる。

選んだ具材をホワイトボードにはる。値段を確認してから、今日、買う物を決めて、買い物に行く。

(4) スーパーで値段を見ながら買い物をする。より安い調達方法などを話し、何を買うか決める。会計をして、領収書をもらう。

(5) 教室に戻り、料理の作り方のプリントを見ながら、出し汁、すし酢、塩昆布を使った簡単な漬け物を作ってみる。

(6) 次週の段取りを相談する。

↓

【秋冬講座 第15回 平成29年1月28日】

■目標 「日本料理を作ってみよう」「作った料理のレシピを書こう」

■受講者側からみた授業の流れ

(1) さしみを買いに行き、その後、食材と名前カードを合わせて置く。

(2) 味噌汁を作る。先週作った「だし汁」を利用。「だし」について学ぶ。(様々な質問が出される)

好きな粉末のだしを選んで、加えて火にかける。味噌を入れてから皆で味見をする(感想を述べながら)

(3) 卵焼きをつくる。らいました。

(4) 手巻き寿司に使う食材を2つの盛り皿に分けてのせる。1つずつ名前を確認しながら盛りつける。

(5) テーブルセッティングをしてから、和食器の名前を一つずつ確認する。

(6) 感想を述べ合いながら、様々な具材を試す。

(7) 簡単に片付けをして、『私の好きな手巻き寿司レシピ』を書く。

■準備したもの

①調味料説明の資料

②和食器説明の資料

③献立表(具材一覧、価格目安あり)

④レシピを書くための用紙

⑤料理のための調理用具、食器類など



○取組事例②

【大目標】「おしゃべりタイム」と称した「日本人との日本語でのやりとり」を楽しむための時間を体験するために。その準備を進める中で、日本語での発信力を高め、積極的に日本語を使う姿勢を養うこと。

【春夏講座 第18回 平成28年9月10日】

■目標 「ミニスピーチをしてみよう」「日本人と日本語でやりとりしよう」

■受講者側からみた授業の流れ (毎回実施する「動詞活用シャドウイング」などの後)

(1) 『おしゃべりタイム』のスピーチの練習をする。

(2) 『おしゃべりタイム』開始、受講者が司会を務める。受講者とボランティアの組み合わせを発表する。

(3) 簡単なミニ文化紹介のスピーチをする。

(4) ペアに分かれて、おしゃべりを楽しむ。

(自己紹介」「自国紹介」「ボランティアの方への質問(予め準備)」を基本の流れとするが、基本的には自由に話をすすめる。

(5) 終了後、教室に戻り、分からなかった表現を質問したり、感想を述べ合ったりする。

(6) 語彙集(『はじめの500語』のP74とP75を読んで、性格と気持ちの言葉を確認する。その後、振り返りプリントを用いて、各自のパートナーはどんな人だったか、おしゃべりタイムはどうだったかななどの質問に答えを書き入れる。

■準備したもの

①ミニスピーチの際に使う食材や写真など

②質問用紙

③振り返り用紙

④ボランティア向け説明



(2) 目標の達成状況・成果

- ①春夏教室修了時、秋冬教室修了時に実施した個別ヒアリング(ビルマ語の通訳あり)での聞き取り、②振り返りシートでのアンケート結果、③文化庁より依頼のアンケート結果、④指導者、指導補助者、日本語教室小委員会委員の観察により目標の達成状況・成果を検証する。

・まず、本講座の目的であった「生活者としての外国人である受講者(難民)が日常生活において最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行える(または、行えるという意識がもてる)ようになること。あわせて、日本社会の一員としての権利や義務を理解した上で、各人が日本社会の一員としての意識を高め、日々の生活の豊かさを求める姿勢がもてるようになること」については、「十分に達成された」と判断する。

③アンケートでは、回答した8名(春夏教室受講者4名、秋冬講座受講者4名)全員が、「受講前より日本語が上手になった」「日本での生活ができるようになった」と回答している。

①個別ヒアリング、②振り返りアンケートでも、「職場でわかることが多くなった」「日本人と話す時の緊張感が少なくなった」「文字が身近なものになった」など、日々の生活の中で日本語力の向上を実感しているコメントが多く聞かれた。

ちなみに、春夏講座を最後まで受講した4名のうち、3名は、当会の学習支援室で日本語学習を継続している。また、春夏講座で受講を中断した3名中2名は、秋冬講座受講を希望し、1名は途中から毎日勉強できる機関に移ったものの、もう1名は受講を継続し、無事に終了している。

・また、「ボランティアで参加する日本人住民が、教室での活動を通じて、外国人住民への理解を深め、コミュニケーション力を向上させ、教室での学びを日々の生活に生かして、外国人住民と共に暮らす日常を楽しめるようになること」についても、活動の様子から、十分な達成が見られたと判断する。

今年度は「日本語教育に関心をもつ日本語専攻の大学生や」とくに日本語教育について学んだ経験のない日本人、「先輩外国人住民」を「学習パートナー」(ボランティア)として育成すること」に注力したが、とくに「先輩外国人住民」がボランティアとして参加したことは、受講者にとっても指導者にとっても良い刺激となった。

・ここ数年継続実施してきた「体験を通して学ぶ導入期日本語講座」は、とくに上記の2つの取組に見られるように、各回の学びが、相互に重なり合い、受講者が自身の日本語力の向上を実感できる形に整ってきている。クラス内での自己紹介が、おしゃべりタイムの自己紹介につながり、修了式での挨拶やスピーチの一部となってつながったり、街歩きで体験した「道をきく」行為が、防災センター集合のための「道をきく」行為で繰り返され、さらには、「トライ日本の味」実施のためのスーパーでの食材探しにつながったりと、全20回の講座が、有機的に結びつきつつある。

(3) 今後の改善点について

- ・文字学習の内容や進め方については、より自立した学習ができるようになる指導も必要ではないかと思われる。その方法を検討していきたい。
- ・外国語学習に慣れておらず、非漢字圏で英語も得意な受講者が学習しやすい教室をどのようにつくっていくか、さらに検討をしていきたい。
- ・ボランティアの方々が活動しやすいように、分かりやすい「活動マニュアル」を検討したい。
- ・学習者の「評価」、「能力判定」について、なかなか適当な方法が見つけられずにいる。他の地域の教室の事例なども参考にしながら、検討を重ねたい。

日本語教育の実施【活動の名称：生活力向上のためのワークショップ～「健康」「生活知識」「防犯・防災」をテーマに】

目的・目標	より多くの外国人住民に対して、生活力向上のためのワークショップを実施する。 (その一つの方策として、出張講座を行う。出張講座で扱うテーマは、今まで実施してきたワークショップの中から選ぶこととし、作成教材等を有効活用する)								
対象	東京近郊に在住する難民、ボランティア(主に日本人)								
取組の内容	定住難民向けに、「健康」「生活知識」「防犯・防災」をテーマにワークショップを開催する								
実施期間	平成28年8月6日～平成29年2月4日				曜日・時間帯		原則として土曜日(12:00～13:30) ※第8回目は拡大版だったため、上記時間とは異なる ※出張講座を開催した際の曜日・時間帯は、上記とは異なる		
開催回数	全 15時間 (1.5時間×8回、3時間×1回)				開催場所		認定NPO法人難民を助ける会会議スペース ※出張講座を開催した際の場所は、上記とは異なる		
参加者	総数 64人(講座に1回以上参加した人の数) (日本語学習者 39人、指導者・支援者 25人など)				使用した教材・リソース		『生活力向上支援BOOK「知っておきたいシリーズ」』(平成27年度文化庁事業にて当会作成) ・ワークショップ担当指導者作成のオリジナル教材や、団体が所持しているチラシやパンフレット		
出身・国別内訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	2	2		2					10
ミャンマー(31人)、エチオピア(2人)、コンゴ(4人)、日本(25人)									

日本語教育の実施内容 (★印：出張講座、外部にて実施)

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成28年5月7日 12:00-13:30	1.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	12人 ミャンマー (12人)	Ⅲ-06 お金を管理する ■タイトル: 高校への進学	1 日本の学校制度 2 色々な高校 3 私立・公立の学費 4 受験制度 5 受験の準備 6 各種奨学金制度	矢崎 理恵 (さぼりと21)	(ビルマ語通訳) MA LIA MANG CING KHAI
2	平成28年8月6日 12:00-13:30	1.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	18人 ミャンマー (子7人 大人7人) 日本(大人1 人) その他(子2 人、大人1人)	I-02 安全を守る/災害に 備え、対応する ■タイトル: 親子で聞く、子ども のための防犯教室	1 子ども向け <講座編> ・登下校、留守番時に気をつけること ・防犯グッズ(防犯ブザー等) <体験編> ・身を守るには 2親向け <講座編> ・子どもを守るために知っておくべきこと ・防犯グッズの紹介	武田 信彦 (うさぎママのパ トロール教室)	(ビルマ語通訳) MA LIA MANG CING KHAI

3	平成28年9月24日 16:00-17:30	1.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	15人 ミャンマー(15人)	I-01 健康を保つ／健康に 気を付ける ■タイトル: 健康診断を受けよう	1 定期健康診断で分かること 2 診断票の見方 3 定期健康診断の受け方 (具体的な申し込み方法、受診できる 医療機関) 4 病気になるらないために気をつけること 5 明日から自分たちができること	富田 茂 (高田馬場さくら クリニック)	(ビルマ語通 訳) マテン テン ウ
★ 4	平成28年9月25日 18:00-19:30 ※関係機関と協働実施	1.5	大久保教会 (新宿区百人町 1-22-1 NSKビ ル3階)	7人 ミャンマー(7人)	I-01 健康を保つ／健康に 気を付ける ■タイトル: 女性の健康と病気	1 女性特有の病気 2 乳がんについて、セルフチェックの方 法 3 子宮に関する病気 4 更年期障害	上村 いずみ (助産師、看護 師)	(ビルマ語通 訳) ドグン タン
5	平成28年11月5日 12:00-13:30	1.5時間	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	29人 ミャンマー(23 人) 日本(6人)	VII-14 他者との関係を円滑 にする／人と付き合 う ■タイトル: 冠婚葬祭マナー	1 婚礼(結婚式・披露宴)の服装 2 お葬式の服装 3 子どもの入学式・卒園式の服装	斉藤 由美、 伊東 聡 (株式会社 東 京ソワール)	(ビルマ語通 訳) LIA CING LAM MANG
★ 6	平成28年11月27日 10:30-12:00 ※関係機関と協働実施	1.5時間	32芝公園ビル 貸会議室第2ス ペース (東京都港区芝 公園3-4-30)	5人 ミャンマー(5人)	I-02 安全を守る／災害に 備え、対応する ■タイトル: 地震ITSUMO講座	1 地震直後の対応 2 家族との連絡の取り方 ・メモの残し方 ・集合場所(避難場所、避難所につい て) 3 防災グッズ ・自宅で過ごす場合 ・避難所で過ごす場合	小倉 文佳 (NPO法人プラ ス・アーツ)	なし
7	平成28年12月3日 12:00-13:30	1.5時間	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	30人 ミャンマー(12 人) ベトナム(2人) エチオピア(2 人) コンゴ(2人) 日本(12人)	I-02 安全を守る／災害に 備え、対応する ■タイトル: 護身術を学ぼう	1 護身術とは 2 基本的な護身術を学んでみよう 3 基本的な抑え技を学んでみよう 4 健康と美容に良いシコトレのすすめ	浅川 達人 (明治学院大 学)	(ビルマ語通 訳) MA LIA MANG CHIN KHAI
★ 8	平成28年12月14日 13:00-14:30 ※関係機関と協働実施	1.5	いわき市文化 センター第一会 議室 (福島県いわき 市平字堂根町 1-4)	13人 フィリピン(10 人) 中国(2人) 韓国(1人)	III-06 お金を管理する ■タイトル: 知っておきたいわが 家の教育費	1 教育にかかるお金の概観 (小・中・高、国公立・私立) 2 教育イベント表を作成しよう 3 小学生・中学生への支援 4 高校生への支援 5 教育資金をためるには (積み立てや保険) 6 教育資金が不足したら (奨学金や教育ローン)	羽場 真美 (ファイナンシャ ルプランナー)	講義補助 長島 みどり (さぼりと21)
9	平成29年2月4日 12:00-15:15 ※「理解を深める講座」第 二回にても記載	3	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	64人 ミャンマー(31 人) ベトナム(1人) コンゴ(3人) エチオピア(1 人) 日本(25人) その他(3人)	I-02 安全を守る／災害に 備え、対応する ■タイトル: 改めて知る「災害の恐 ろしさ」、改めて学ぶ 「防災」 ～3.11の被災、その後 の復興への歩みを伺 いながら	【第一部】12:00～13:30 「被災時の経験とその後」 1 被災した当時のこと 2 その後のこと 3 被災地や被災した方々の現状 【第二部】13:45～15:15 「地震ITSUMO講座」 1 地震直後の対応 2 避難所や自宅での避難生活に役立つ 防災グッズ 3 災害時の連絡方法	【第一部】 高橋 真由美 阿部 秀隆 (石巻市より) 【第二部】 小倉 文佳 (NPO法人プラ ス・アーツ)	(ビルマ語通 訳) 【第一部】 MA LIA MANG CING KHAI 【第二部】 LIA CING LAM MANG

※上記に加えて、日本アイ・ピー・エム(株)の有志ボランティアによる「エンジニアになって橋を作ろう」を実施(平成28年6月4日)。子どもを対象としたワークショップで、エンジニアの仕事について知る機会として、年に1回程度で継続的に実施している。

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 平成28年8月6日】

【テーマ】 親子で聞く防犯教室

【担当】 講師: 武田 信彦 (うさぎママのパトロール教室) ビルマ語通訳: マリア マン チン カイ

【参加者】 18名(ミャンマー 子ども7名・大人7名、その他 子ども2名・大人1名、日本人1名、)

【目的】

子どもに関する事故・事件が増えている昨今の状況から、子どもを事故・事件から守るために気を付けるべきことを親子で学び、防犯の意識を高める。

【内容】

● 子ども向け

1 座学編:

- ・登下校中の路上での安全(クイズ形式) 「予防の力(よく見る・聞く)」「対処の力(逃げる・伝える)」「断る力(できません)」
 - ・留守番をしている時の安全
- ⇒「断る力(できません)」の練習の際は、寸劇風に話を進める。

2 体験編: 以下2つを实践

- ・「ダルマさんが転んだ」・・・周囲をよく見る練習
 - ・「新聞の棒」・・・触られない距離感を知る・保つ練習
- ⇒親も一緒に。子ども同士で叩き合わないよう注意。☆終わったらすぐに新聞棒を回収。

3 まとめ

● 親向け

○座学編:

- ・子どもが自分自身で守る、保護者が守る、地域で守る
- ・人との接し方(断る力、インターネット)
- ・防犯ブザーについて



○取組事例②

【第8回 平成29年2月4日】

※本ワークショップは、「人材育成」「理解を深める講座」を兼ねる

【テーマ】 改めて知る「災害の恐ろしさ」と、改めて学ぶ「防災」～3.11の被災、その後の復興への歩みを伺いながら

【担当】 講師: 高橋 真由美、阿部 秀隆、小倉 丈佳(NPO法人プラス・アーツ) ビルマ語通訳: マリア マン チン カイ、リア チン ラム マン

【参加者】 64名(ミャンマー 31名、ベトナム 1名、コンゴ 3名、エチオピア 1名、日本人 25名、その他 3名)

【目的】

第一部では、被災経験者の方々から直接、当時の様子、その後の復興への歩みについてお話を聞き、災害について考える機会とする。第二部では、第一部のお話を踏まえ、防災のために必要とされる具体的な備えを学ぶ。

【内容】

●第一部「被災時の経験とその後」(講師:高橋 真由美、阿部 秀隆)

- 1 被災した当時のこと
- 2 その後のこと
- 3 被災地や被災した方々の現状

●第二部「地震ITUMO講座」(講師:小倉 丈佳)

- 1 地震直後の対応・・・揺れている時の行動、揺れがおさまったら行うこと
- 2 防災グッズの紹介・・・避難所生活や、自宅での避難生活に役立つグッズ
- 3 災害時の連絡方法・・・家族の連絡方法を決めておこう、災害用伝言ダイヤルの使い方

●質疑応答&会場からの声

●アンケート記入



(2) 目標の達成状況・成果

●各回のワークショップ後に参加者に対して行ったアンケートならびにヒアリングの結果、講師とコーディネーターの観察により達成状況・成果を判断する。

本講座の目的・目標として掲げた以下2点について達成状況・成果を述べる。

1. 日本語ができない外国人住民も、生活上必要な情報を知り、生活力向上のためのスキルを身につける

昨年度に引き続き、ニーズの高い「健康」、「生活知識」、「防災」をテーマに、トピックを変えて実施した。ワークショップでは受講者の多くがミャンマー出身であることを考慮し、ビルマ語通訳を毎回配備した。通訳を準備したため、日本語ができない外国人住民の積極的な参加を促すことができた。また母語で説明を聞けるため正しい理解の促進が実現できたと考える。各テーマにおける特徴的な場面は上記をご参照いただきたい。

毎年、新しいテーマを積極的に取り入れ、受講者にとっても常に新鮮な学びとなるように心掛けていることから、参加者数も安定していると考えられる。

※上記1.の達成状況については、以下アンケート結果からも読み取ることができる。

「何よりも今が大切であること」、「失ったものを数えるより、今あるものを数えよう」、「小さな幸せを探して乗り越えた」という高橋さんのお言葉に勇気もらった」(ミャンマー人 女性)

「ミャンマーにいるときは地震に遭ったことがない。このようなワークショップはとても良いです」(ミャンマー人 男性)

「災害に備える防災グッズや家具の転倒防止対策などを知ることができました。家庭でも防災対策を始めます」(ミャンマー人 女性)

2. 他団体と連携して出張ワークショップを行うことで、新たなコミュニティに属する難民等の定住外国人にワークショップを実施する。

外国人住民の支援や交流を行う他の団体と連携して、出張ワークショップを3度実施した。事前にヒアリングを行い、関心の高かった「健康」「防災」「生活知識」のワークショップを行ったが、普段当会と関わりのないコミュニティにリーチすることができ、有意義な機会になった。また、今までの事業で作成した教材の有効活用、講師との継続的な関係づくりともなっている。これまでの文化庁事業において実施してきたワークショップの実績を活かし、今後も継続して行っていきたい。

(3) 今後の改善点について

今年度の事業を通して、改善点、また今後の活動に活かしていきたい点は以下の通りである。

・他地域でのワークショップ開催

(2)でも言及したが、難民コミュニティと関わるのある団体や地域の国際交流団体と協働し、出張ワークショップを積極的に開催していきたいと考える。開催する際には1回限りではなく、年に2～3回はテーマを変えて開催し、参加する外国人住民のニーズをくみとり、より有益な情報の提供に努めていきたい。ワークショップを一つのきっかけとして、これまで関わりのもてなかったエスニックコミュニティとのつながりが生まれ、当会の活動がより多くの外国人住民の方々のニーズや求めに細やかに対応していけるのではないかと期待する。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：日本語教室ボランティアのためのブラッシュアップ講座】

目的・目標	地域日本語教室で活動するボランティアが、「生活者としての外国人」や「日本語教育支援のあり方」について理解を深め、日本語教育支援のスキルを高めることにより、各人が所属する日本語教室の日々の活動を活性化する意識とスキルをもてるようになることをねらいとしている。 今年度は、「教材を考える」をテーマに、参加者皆で、共に学び、共に考える「参加」型の講座とした。								
対象	地域日本語教室でボランティアとして活動している人、または活動に関心がある人								
取組の内容	地域日本語教室で活動するボランティアを対象として、以下の通り講座を実施した。 ①教材の情報を提供する 教材作成者を招き、教材作成の意図や使い方について、グループワークも取り入れ、実践的に学ぶ ②受講者自身が自らの教材や教え方を振り返る ③日ごろの活動の中で生ずる様々な悩みを解決すべく、共に考える ナビゲーター複数名が講座を見守り、必要に応じて各人の情報や考え方、実践例などを共有する								
実施期間	平成 28年 10月 23日～平成 29年 1月 29日			曜日・時間帯			日曜日(13:00～15:40)		
開催回数	全 20時間 (1回 2.5時間 × 8回)			開催場所			認定NPO法人難民を助ける会会議スペース		
参加者	総数 29人(2回以上参加者数) ※毎回ナビゲーター(講座担当委員)複数名が参加			使用した教材・リソース			<ul style="list-style-type: none"> ・講師作成のオリジナル教材 ・『いっぽにほんごさんぼ-暮らしの日本語教室 <1>』『同く2>』宿谷和子・天坊千明著(スリーエーネットワーク) ・『イラスト満載！日本語教師のための活動アイデアブック』小山悟著(スリーエーネットワーク) ・『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』松岡弘 監修 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 著(スリーエーネットワーク) ・『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』白川博之 監修 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 著(スリーエーネットワーク) ・『日本語文型辞典』グループ・ジャマシ編著(くろしお出版) ・『マンガで学ぶ日本語表現と日本文化 多辺田家が行く!!』武田聡子監修 創作集団 にほんご(アルク) ・生活場面切り取り動画 (http://support21.or.jp/ouractivities/learning-program/top-page/seikatsubamen-kiritoridauga/) 		
出身・国別内訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	日本(29人)								
カリキュラム案活用	「ブラッシュアップ講座」では受講者が「カリキュラム案」について直接学ぶことはしていないが、「カリキュラム案」の目的、目標を共有しながら、ボランティアとしていかに日本語学習支援の活動をしていくのか、自身の活動を評価するのかを考えられる講座を目指している。								

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師名	補助者名
1	平成28年10月23日(日) 13:00-15:40	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	24	お悩み事あれこれ相談・教材概説	1. アイスブレイク(互いの活動を知る) 2. 教材分析(特徴) 3. お悩み相談	岩田一成	(奥原淳子) (長崎清美)
2	平成28年10月30日(日) 13:00-15:40	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	25	『いっぽにほんごさんぼ-暮らしの日本語教室』	1. 地域で学ぶ初心者の学習のために 2. 学習者が話したくなる活動 3. 生活者としての外国人のために必要な日本語	宿谷和子	(岩田一成) (奥原淳子)
3	平成28年11月6日(日) 13:00-15:40	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	22	『イラスト満載！日本語教師のための活動アイデアブック』	1. 地域の教室の実情に合った教え方とは 2. 授業づくりのアドバイス	小山 悟	(岩田一成) (奥原淳子) (長崎清美)
4	平成28年11月27日(日) 13:00-15:40	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	20	日本語文型事典の活用～文法の調べ方、どうやって？	1. 質問されたらどうする？ 2. 辞書類の使い方	岩田一成	(奥原淳子) (長崎清美)
5	平成28年12月11日(日) 13:00-15:40	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	17	『マンガで学ぶ日本語表現と日本文化-多辺田家が行く!』	1. マンガ教材について 2. 学習者になって体験する 3. 自分自身の教案を考える	武田聡子	(奥原淳子) (長崎清美)
6	平成28年12月25日(日) 13:00-15:40	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	16	ウェブ教材、どう使う？	1. ウェブサイト紹介(情報を得る、教材を得る、便利に使う) 2. 生活場面切り取り動画	矢崎理恵	(岩田一成) (奥原淳子) (長崎清美)
7	平成29年1月22日(日) 13:00-15:40	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	17	お悩み事、さてどう解決する？(1)	教室運営、教室環境などについて考える	奥原淳子	(岩田一成) (長崎清美) (矢崎理恵)
8	平成29年1月23日(日) 13:00-15:40	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	19	お悩み事、さてどう解決する？(2)	1. 活動の進め方や教えることについて考える 2. みんなで話そう(ボランティアはどこまでやるべき？活動内容はどのように決めている？)	長崎清美	(岩田一成) (奥原淳子)

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 平成28年10月23日】

■参加者 24名

■講座テーマ お悩み事あれこれ相談・教材概説

■内容

□前半13:10-14:30 教材分析

【講師】岩田一成 【補助者】奥原淳子・長崎清美

<進め方> * 受講者は6つのグループ(各グループ4~5名)に分かれて着席。

* PPT・ホワイトボード使用。

<ねらい>この講座でこれから順に紹介する教材を手にとって、どういう教材なのか知ってもらおう。

<内容>5種類の教材を各グループに1冊ずつ渡して、時間が来たら次のグループに教材を回すという活動を行った。3回目したので、各グループは3種類だけ見たことになる。紹介することが目的なので、見ていないグループに対して紹介活動を行った。

※分析対象教材

『いっぽにほんごさんぽー暮らしの日本語教室 <1><2>』

『イラスト満載！日本語教師のため活動アイデアブック』

『日本語文法ハンドブック 初級 中上級』

『日本語文型辞典』

『マンガで学ぶ日本語表現と日本文化 多辺田家が行く!!』

※分析の視点

① 一言で紹介するなら、この教材は何なのか。

② 気づいた特徴

□後半14:40-15:40 悩み相談

【講師】岩田一成 【補助者】奥原淳子・長崎清美

<ねらい>各教室でボランティアが抱えている問題点を共有する。最終回「お悩み事、さてどう解決する？」の題材を収集する。

<内容>

以下に例を示した選択肢(「よく挙がるボランティアの悩み」)から、自分に当てはまりそうなものを選んでグループディスカッションを行った。

a. 教室(活動場所)の確保が難しいこと

b. パソコンやプリンターが自由に使えないこと

c. コピー機が自由に使えないこと

d. 外国人参加者が集まらないこと

e. 外国人参加者がよく欠席する/すぐ辞めて入れ替わりが激しいこと などなど

□15:35-15:40 アンケート

<所感>

各グループ非常に熱心に取り組んでいた。教材分析は特に、どの教材についても真摯に取り組んでいた。悩みは教室が違って同じものが多く、まずは、「みんな同じことで悩んでいるのだ」という気づきがあった点が大事な収穫だと考える。



○取組事例②

【第8回 平成29年1月29日】

■参加者 19名

■講座テーマ:お悩み事、さてどう解決する?

【講師】長崎清美 【補助者】岩田一成・奥原淳子・矢崎理恵・

<内容>ここまでの講座で収集したお悩みに関して、各講師が答える。

お悩みの例

①理解度、習熟度ををはかるには

②終助詞の教え方 例「よ、ね」

③クラスのレベル差をどうするか

④読む力と書く力の差がある学習者への対応

講師からの説明としては、①についてはOPIを紹介し、インタビュー形式の評価があることを伝えた。これを基に、教科書ベースの質問項目リストを教室で作って、答えられるかどうかで能力を判定してはどうかという提案をした。

②については、講座の4回目で紹介した日本語文法ハンドブックをひきながら、終助詞の使用制約を説明した。

<所感>

質問内容が多岐にわたっているため、講座のまとめりという点では、あまりまとまっていない印象を受けた。ニーズベースで行うとこうなるのはある意味仕方ないことである。自分が出した質問に対応してもらえるので、参加者の満足度は高かった。大事な点は、ボランティアの方が実践可能かどうかという点である。



(2) 目標の達成状況・成果

●アンケートにより、各回および全体を通しての満足度や意見を聴き、目標の達成状況と成果を確認した。結果は以下の通りである。

回	大変有意義だった	有意義だった	どちらでもない	あまり	全く
				有意義でなかった	有意義でなかった
1	39.1	60.9	0	0	0
2	62.5	33.3	4.2	0	0
3	61.9	33.3	4.8	0	0
4	78.9	10.5	10.5	0	0
5	94.1	5.9	0	0	0
6	73.3	26.7	0	0	0
7	29.4	70.6	0	0	0
8	64.7	35.3	0	0	0
全体	58.8	41.2	0	0	0

アンケート結果から、講座に対する満足度が高かったことがわかる。このことから講座の目標は概ね達成できたと言える。本講座の目的は、教材の情報を提供すること、さらに、そのことを通じ、受講者自身が自らの教材や教え方を振り返る機会を提供しようというものであった。講座での成果として、以下の点を挙げたい。

まず、教材作成者として、宿谷和子氏、小山悟氏、武田聡子氏をお招きできたということ。受講者の「今回、いろいろな教材にふれることができました。やはり、作ったご本人にお話を伺うことができたことが一番の収穫だと思います。必ずいかしたいと思っております。」という声为代表するように、著者をお呼びしたことで、教材に対する関心や興味が一層喚起できたと思われる。また、三氏の教材をはじめ、他にも数種の教材や「文法の調べ方」等を紹介したことで、教材はそれぞれの考え方に拠って作られているということ、さらに、学習観や教授観は多様であるということが理解できたのではないかと。教材は学習者のニーズに大きく関わってくる。学習者とどう向き合っていくかを再考するきっかけを提供できたと言える。

さらに、インターネット上の便利なツールやWEB教材の紹介も意義あるものであった。現在、便利ツールはもちろん、授業にも活用できるweb教材は多数存在する。機器の有無などの教室の物理的状況、当人のスキルといった事情はあるものの、「ウェブ教材について全く考えていなかった。時代に即して必要だと思う。短所はあるとしても時間的なこと、費用等を考えると、これからの課題であると思う」というコメントがあったが、多くの受講者がWEB教材の必要性を感じたようだった。

一方、受講者自身の教材や教え方の振り返り、という点においては再考の余地が残った。教材がそれぞれの意図により編まれたものであることを学んだ上で、自身の教材を見つめ直してもらおうと考えていたが、その点の掘り下げ方は十分ではなかったように思う。進め方をもう少し丁寧にしていく必要があり、今後の課題としたい。

以下に、講座の評価としてアンケートの一部を紹介したい。

◆「教材」をテーマにしたことについて

- ・とても良かった。日頃手にすることのない教材も手にとって見ることもできて良かった。
- ・どのような教材がありどう使うかというヒントをいっぱいいただいたので活用したいと思います。
- ・意外とよかった。最初どうかと思ったが、多岐に渡っていたので飽きなかった。
- ・「積み上げ式でない」教材を何種類かご紹介いただき、学習者はもちろん講師も楽しく学べる内容があることを初めて知ることができた。実際に利用するかは別だが、見識を広めることになりよかったと思う。
- ・教材をテーマにしていたようですが、もっと範囲が広がった。とても良かった。使ったことのない教材もあり参考になった。
- ・教材に関する情報が多すぎて迷いが深くなりました。
- ・紹介された教材の良い点だけでなく、使いづらいポイント制約なども知りたかった。
- ・よかったと思います。書店に向く時間もありません。参考になりました。

◆各回の感想

- 第1回 「他のボランティアの方々も同じようなことで悩んでいることがわかった。」
- 第2回 「この本をどう考えて作ったのかがわかりましたので、使う上で参考になりました。」「具体的ですぐに教える活動方法を教えて頂けた。学習者が負担なく楽しく覚えられるヒントばかりでした。」
- 第3回 「ワークショップが楽しかった。テキスト、文法にたよらない方法が少しだけ理解できた気がする。」
- 第4回 「文法をどう扱うかについて、基本がわかった。今までいろいろ悩んでいたのが、少し楽になった。」
- 第5回 「マンガを使っでの授業というものを行ったことがなく、進め方などとても新鮮でした。」「日本文化の理解のために、漫画を活用すると楽しく学習できることがわかりました。」
- 第6回 「ウェブ教材の存在がこんなにあったのかという驚き。しかし、使いこなせるかどうか自信がない。今後の課題です。」
- 第7回 「動画をレッスンに使うということを初めて知りました。ぜひ使ってみたいと思います。」「教室運営のヒントが得られた。恵まれた組織もいくつかあり、参考になった。そのような組織に早くしたい。」
- 第8回 「グループの話合いが楽しく、他のボランティアグループの様子が聞けてよかったです。」

◆全体を通して

- ・色々なアプローチを知る機会を得た。
- ・Web教材についてその存在を知ることができたことは私にとって収穫でした。
- ・ボランティアの活動とプロの活動の違いを改めて見直しできた。
- ・毎回内容豊富だったと思います。参加者同士のコミュニケーションもとれる感じで親しくなれよかったです。
- ・ボランティアの現場で使える教材に出会えたのがよかったです。
- ・一人で悩まずに他の方々(経験者・プロの方)の経験・知識を共有し、教えて頂くことで気持ちが楽になった。
- ・様々な視点から教材や活動について考える機会が多かった。
- ・この活動を始めてまだ日が浅いので、知識やみなさんの知恵をお借りして自身の知識を増やす、発見を得ることができました。

mなる

(3) 今後の改善点について

今回、34名の方からの申し込みがあった。出席率100%が9名いたことは喜ばしいことだが、その一方で、後半の4回の講座参加者数は16名～19名と、前半4回の講座受講者数に比べて少なかった。
 また、ここ数年、当会の講座に信頼を寄せ、毎年講座に参加して下さる方々が多くいてくださることは、ありがたいことであるが、その一方で、新たに講座に通う方の数が受講申し込み者全体の半数程度であり、より広範囲のボランティアの方々に広報・周知をしていく必要性を感じる。
 昨年度も出席率が課題となり、その解決策として、今年度は受講者の負担をやや軽くし、当日の時間内で完結する内容とすることを考えたが、全ての回を連続して受講するからこそ、より深い学びにつながるような講座のもち方も検討してよいのではないと思われる。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：日本語教室ボランティアのためのスキルアップ講座】

目的・目標	地域日本語教室で活動するボランティア(比較的活動経験が少ない方)が、「生活者としての外国人」や「日本語教育支援のあり方」について理解を深め、日本語教育支援のスキルを高めることにより、各人が所属する日本語教室の日々の活動を活性化させる意識とスキルをもてるようになることをねらいとしている。								
対象	地域日本語教室でボランティアとして活動中の方								
取組の内容	地域日本語教室で活動するボランティア(比較的活動経験が少ない方)を対象として、以下の通り講座を実施した。 ①日本語教室で出会う「相手」と「自分」を知る ②レッスンの設計を具体的に学ぶ ③より良い活動をするための方策を考える								
実施期間	平成29年2月15日～平成29年3月15日			曜日・時間帯			原則として 水曜日(18:30～21:00)		
開催回数	全10時間(1回2.5時間×4回)			開催場所			高齢者総合サポートセンター 「かがやきプラザ」(東京都千代田区)		
参加者	総数 13人 (指導者・支援者 13人など)						使用した教材・リソース ・講師作成資料 ・「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」他		
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	1								
カリキュラム案活用	「カリキュラム案」の目的、目標を共有しながら、ボランティアとしていかに日本語学習支援の活動をしていくのかを考えることとした。 (カリキュラム案に習熟することではなく、カリキュラム案を題材に用いて、学習者のことを考えたり生活に思いをめぐらせたり、行動・体験中心の活動プランの立て方や言語的側面以外にもサポートすべきことがあるということを実感することを狙いとした)								

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師名	補助者名
1	平成29年2月15日(水) 18:30～21:00	2.5	かがやきプラザ 研修室	11	日本語教室で出会う「相手」と「自分」を知ろう!	■目標 学習者を知る、ボランティア仲間を知る、自分を知る ■内容 1)ウォームアップ:数字カードを使ってグループ内で自己紹介(自分を知る、ボランティア仲間を知る) 2)グループ対抗地域日本語クイズ(学習者を知る) 3)レヌカの学び(学習者を知る)	田中美穂子	なし
2	平成29年3月1日(水) 18:30～21:00	2.5	かがやきプラザ 研修室	2	テキストを使ってレッスンを検討しよう!	■目標 ①教科書の種類や特性を理解する ②教科書を用いたレッスンの設計の仕方を理解する ■内容 1)教室紹介 2)ウォームアップ:私のエッセンス 3)第1部:教科書の特性を知る 4)第2部:レッスンを組み立てる(架空の学習者プリアさん(属性、ニーズ、レディネスを提示)に『みんなの日本語初級I』第17課「Vなければならない」の文型を教えるためのレッスンプランをグループで考えて発表するタスク)	田中美穂子	なし

3	平成29年3月7日(火) 18:30~21:00	2.5	かがやきプラザ 研修室	3	生活場面のテーマにもとづいて自由にレッスンを設計しよう!	■目標 ①新しい地域日本語教育の流れを、標準的なカリキュラム案の内容を知ることによって体感する。 ②標準的なカリキュラム案に基づく授業プラン(活動案)を設計することにより、アイデアを共有したり、学習者のことを理解することの重要性に改めて気づき、日本語教室において自分ができることは何かを考えたりする機会にする。 ■内容 1) 次回講座検討のためのアンケート 2) 標準的なカリキュラム案について概要説明 3) 活動案の作成とフィードバック 4) 振り返りシート記入	田中美穂子	なし
4	平成29年3月15日(水) 18:30~21:00	2.5	かがやきプラザ 研修室	2	日本語学習の基礎を振り返ろう!	■目標 ①直接法での外国語レッスンを通して、学習者の気持を体感する。相手に伝わる話し方について考える。 ②より良い活動にするために話し合い、解決方法を考える ■内容 1) これまでの振り返り 2) 外国語のレッスン体験 3) 伝えるためのストラテジー 4) よりよい活動にするための話し合い	田中美穂子	(矢崎理恵)

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 平成29年2月15日】

- 日本語教室で出会う「相手」と「自分」を知ろう!
- 目標: 学習者を知る、ボランティア仲間を知る、自分を知る

■内容:

- ウォームアップ: 数字カードを使ってグループ内で自己紹介(自分を知る、ボランティア仲間を知る)
- グループ対抗地域日本語クイズ(学習者を知る)
 目的: 日本社会における定住外国人のタイプや増加時期、要因などを理解した上で、社会的・歴史的文脈の中で学習者の背景をとらえる。
 ・千代田区の在留外国人人口、日本の在留外国人人口、急増している国籍、日系人、インドシナ難民、中国帰国者、EPAに関する7問。正解率ほぼ50%。
 ・クイズの後、日本に外国人が入ってくる時期を年表にしたものを提示してまとめ、スワンの教室に来る学習者はどんな背景を持つ人なのかグループで話し合う。
- レヌカの学び(学習者を知る)
 ・目的&内容: 開発教育教材「レヌカの学び」を使用。レヌカを教室に来る学習者の代表という設定にし、「レヌカ」の変容の真の理由や背景を知ることにより、自分のステレオタイプや思い込みに気づいてもらう。
 ・最後にまとめとして、①教室に来る無数のレヌカの言葉や言動等の表面的なものを自分の主観で判断するのではなく、背景にある社会・歴史・文化的及び個人的な要因を見つめて考えること(「あなたにそういう状況や背景があるのなら、あなたがそのように考える・行動するのも納得できる」という思考)の重要性を伝える。②レヌカが変容したように、ボランティアのみなさんもボランティアを始める前と今とで変容しているはず。何か変わったかなと少し考えてみて欲しいと伝える。



日本社会の中の定住外国人

●外国人の国籍別人口(推定)

2015年	韓国	1,000,000人
2015年	中国	800,000人
2015年	インドネシア	500,000人
2015年	フィリピン	400,000人
2015年	タイ	300,000人
2015年	ベトナム	200,000人
2015年	インド	100,000人
2015年	アメリカ	50,000人
2015年	その他	100,000人

●外国人の国籍別人口(推定)は、2015年時点での推定値です。



「レヌカの学び」の活動
【学習者を知る】

【第3回 平成29年3月7日】

タイトル:生活場面のテーマに基づいて自由にレッスンを設計しよう!

目標

①新しい地域日本語教育の流れを、標準的なカリキュラム案の内容を知ることによって体感する。

②標準的なカリキュラム案に基づく授業プラン(活動案)を設計することにより、アイデアを共有したり、学習者のことを理解することの重要性に改めて気づき、日本語教室において自分にできることは何かを考えたりする機会にする。

※本講座でのカリキュラム案の位置づけ

本講座では、標準的なカリキュラム案から生活上の行為を選び、その行為を達成するために何ができることが必要かを考え、行動・体験中心の教室活動案を考えるということを行う。但し、カリキュラム案の普及や推進ではなく、カリキュラム案を題材に、学習者のことを考えたり生活に思いをめぐらせたり、行動・体験中心の活動プランの立て方や言語的側面以外にもサポートすべきことがあるということを実感してもらうことが狙いである。これを達成するための道具として、カリキュラム案を使用する。したがって、カリキュラム案に習熟することを目的としているのではない。

内容:

1) 第4回に向けた事前アンケート記入

2) 標準的なカリキュラム案について概要説明

日本語教育の新たな流れを知るキーワードとして、Can-doの概念をCEFRやJFスタンダードを例に簡単に説明した後、地域日本語教育のCan-doを用いた取り組みという切り口で標準的なカリキュラム案について紹介した。「生活上の行為」「能力記述(Can-do)」「行動・体験中心の教室活動」の3つのキーワード、実際の活動案例、行動・体験中心の教室活動を支える手法(ロールプレイ、フォトランゲージ…等)について解説。(手法については、習熟が目的でなく、イメージを持ってもらうことが狙い。イメージが湧くようにすべての手法について具体的な場面や例を挙げて説明)

3) 活動案の作成とフィードバック

対象者を選んで属性やレディネスなどをグループのメンバーで共有し、生活上の行為の事例から対象者が必要としていそうな生活上の行為を選ぶ。該当行為を達成するために何ができることが必要かを考え、活動案に落とし込んでいく作業。

※3人×1グループのグループワーク

⇒【第一段階】受講者が選んだ対象者は、就労資格で来日した50代韓国人男性、日本語は上級レベル、勤務先は韓国政府系の組織で職場では日本語を使わない。生活上の行為の選定段階では、「日本語が上級レベル(政治等の話ができる)だから(44)余暇を楽しむ」ぐらいが適当なんじゃないか?」という意見でまとまりそうになったため、講師より「初・中・上級といった従来のレベルから判断するのではなく、生活の側面に着目して考えること。[上級レベル=生活上の行為が簡単にできる]とは限らない」という話をし、再考を促した。しばらくすると対象者には近い将来妻子を呼び寄せる予定があるという情報があがってきたため、単身者の生活と家族帯同世帯の生活はかなり異なること、奥さんが日本の生活に慣れるまでは対象者がサポートする必要があること等のヒントを出し、奥さんが来日したらまず何を知りたい/したいと思うかという切り口で考えるように促した結果、料理を作るために買い物へ行きたいだろう、対象者は奥さんにそれらを教える必要があるだろうということから、「(08)物品購入・サービスを利用する—04:デパート、スーパーマーケット、コンビニ、電気店、書店等で買い物をする、22:希望の食べ物を買う店を探す」を扱うことに決まった。

⇒【第二段階】これらの行為を達成するために、何ができることが必要かを考える段階では、「スーパーへ行ける」「どこにスーパーがあるか聞ける」「スーパーの中のどこに何がわかるか聞ける」というCan-doが上がってきた。

⇒【第三段階】具体的な活動案を考える部分がかかなり難しかったという印象を受けた。

ヒントを出しながら話しているうちに、①【イメージをつかむ】「スーパーの画像をいくつか見せて買い物の経験を話す」②【行動・体験中心の活動】「検索キーワードを教えてスーパー場所をスマホで検索する」「スーパーの天井につるしてある商品分類を読む」「欲しいものがどこにあるか店員に尋ねる」などのアイデアがあがった。

⇒【第四段階】講師より、上記のアイデアの具体的なタスクの例を紹介。「近所のスーパーをスマホで調べてその名前を書こう!(ワークシート)」「スーパーのロゴをいくつか並べて行ったことのあるものに○を付ける/何を扱う店か考える」「店の天井につるしてある分類の写真を撮ってきて分類ゲームをしながら品物の語彙も覚える」「チラシを見て特価・目玉商品等の情報を読み取る」等。また、言語以外の文化・習慣的な情報(レジ袋有料、精算前は商品は店のものという考え方=食べてはいけない)等を加える必要があることにも触れた。最後に参考資料の紹介も兼ねて、カリキュラム案の教材例集で当該箇所の活動案を確認。活動案は対象者によって変わるため、これを教科書のようにしてすべてをこのまま使えばいいということではないことを強調した。

4) 振り返りシート記入

活動案作成の過程で感じたこと、考えたこと等をシートに記入。



(2) 目標の達成状況・成果

●各回終了時に実施したアンケートにより、満足度や意見をきき、目標の達成状況と成果を確認した。結果は以下の通りである。

回	大変有意義だった	有意義だった	どちらでもない	あまり	全く
				有意義でなかった	有意義でなかった
1	9名	2名	0	0	0
2	5名	2名	0	0	0
3	3名	0	0	0	0
4	6名	1名	1名	0	0
全体	23名 (79.3%)	5名 (17.2%)	1名 (0.5%)	0	0

アンケート結果から、講座に対する満足度が高かったことがわかる。

アンケートの記述からも、「生活者としての外国人」や「日本語教育支援のあり方」について理解を深め、日本語教育支援のスキルを高めることにより、各人が所属する日本語教室の日々の活動を活性化する意識とスキルをもてるようになる」という講座の目標は概ね達成できたと考えられる。

受講者の「実感」や「体感」を期待して、主体的な活動の時間を多く設けたことが、受講者自らの気づきにつながったと思われる。また、日頃同じ教室で活動するボランティアが大半を占め、活動仲間としての信頼関係が構築されつつあったことも講座全体の活気につながった。活動を始めてからまだ数年の団体ということで、新しい知識や情報、考え方の共有に前向きで、講座実施は非常に良いタイミングで実施されたのではないかとと思われる。

以下に、講座の評価としてアンケートの一部を紹介したい。

◆各回の感想

第1回 「個人の考え方がその人の人生経験、興味分野をベースとして成り立っていることが改めて理解できました」「ゲーム、レヌカの学びを通して異なる視点がいくつもあることを学び、異なる視点を知ることで本当の姿を知ることができるということを学んだ」「グループワークによる学びは様々な視点があることが知れて有意義でした。この方式でまた学んでいきたいと思えます」

第2回 「どのようにレッスンを進めたら良いか、具体的でわかりやすかったです」「ボランティア活動における学習指導の参考になる要素が盛り沢山でした。」「レッスンの設計という考え方を学んだ、このような発想には今までふれたことがなかった」

第3回 「実践ですぐに使えるような技術／方法を学んだ」「学習者が何を必要としているかを色々な角度から考えることができた」

第4回 「クラス運営の問題点の対応が明確に見えてきました」「直接法のレッスンで学習者の立場に立った時に受ける実感が体験できました」「今回の受講内容を実践でどう生かすかを自分の課題として取り組んでいきます。」

(3) 今後の改善点について

今回の講座実施は、「なかなか遠方までは研修のために出向けない」環境にあるボランティアの方々のために、受講しやすいであろう場所や時間帯にあわせて講座を実施することで、地域日本語教室に多少なりとも貢献できるのではないかと、希望団体を募った。講座実施を検討する段階で、教室内での話し合いがもたれ、それがそのまま日頃の活動の振り返りにつながるのではないかと考えたが、実際には一部窓口となった方の負担を増やすだけだったようにも思われる。経験の浅いボランティアの参加を促す研修のもち方については、さらに検討が必要である。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：理解を深める講座】

目的・目標	地域日本語教室で活動するボランティアが、「生活者としての外国人」について理解を深めること。自らの教室活動を、多文化共生やダイバーシティの視点からとらえ直し、日々の活動の振り返りや改善を意識できるようになること。 難民等日本に定住する外国人住民が、日本人住民と共に、定住のための課題を考えること。								
対象	地域日本語教室でボランティアとして活動している人、または活動に関心がある人や、定住外国人。								
取組の内容	2つのタイプの講座を実施した。 ①「異国日本を生きる私、そして私と家族」のタイトルで、定住外国人の家族の抱える困難や、親世代、子世代それぞれが抱える課題について、当事者からの発信を中心に講座を開催した。 ②ワークショップ拡大版として「改めて知る災害の恐ろしさ、改めて学ぶ防災 ～3.11の被災、その後の復興の歩みをうかがいながら」を実施。外国人住民、日本人住民が、共に理解を深め、話し合い、考え合う必要のある「防災」をテーマにすえた。被災者の声に耳を傾けることから講座を始め、災害に対する備えをしていくことの必要性を外国人住民も日本人住民も、共に自分の問題としてとらえ、「自助」「共助」を実感した上で、災害への備えを具体的に学ぶという形で講座を展開した。								
実施期間	①平成28年11月13日 ②平成29年2月4日	曜日・時間帯	①日曜日(11:00～17:00) ②土曜日(12:00～15:15)						
開催回数	全8時間(1回5時間×1回、1回3時間×1回)	開催場所	①明治学院大学 高輪校舎 ②認定NPO法人難民を助ける会会議スペース						
参加者	① 総数 59人(日本語学習者6人、日本人53人) ② 総数 64人(日本語学習者25人、日本人39人)	使用した教材・リソース	講師作成のオリジナル資料						
出身・国別内訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	ミャンマー(31人)、コンゴ(3人)、エチオピア(1名)、日本(25人) 他								
カリキュラム案活用	「カリキュラム案」の目的、目標を実感をもって理解していくことを目指している。								

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師名	補助者名
1	平成28年11月13日(日) 11:00-17:00	5	明治学院大学 高輪校舎	59人	異国日本を生きる家族のありよう	1. 外国につながる私、そして私と家族 2. 日本につながった私、そして私と家族 3. 定住外国人「だから」抱える「家族」の問題とは？ 4. 質疑応答から考える「家族」のこと	Nguyen Tat Trung 景山 宙 安富祖 樹里 王 雁 田中 ネリ 野沢 慎司	矢崎理恵 (司会)
2	平成29年2月4日(土) 12:00-15:15 ※「生活力向上のためのワークショップ」第9回にて詳細を記載	3	認定NPO法人 難民を助ける会 会議スペース	64人	防災	1. 被災時の経験とその後 2. 地震ITSUMO講座	高橋 真由美 阿部 秀隆 小倉 文佳	矢崎理恵 (司会) MA LIA MANG CING KHAI LIA CING LAM MANG (ビルマ語通訳)

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分) ※第2回の講座は、「生活力向上のためのワークショップ(第9回)」にて記載している

○取組事例①

■講座日時:平成28年11月13日(日)10:00-17:00 【参加者】59名

■講座タイトル:異国日本を生きる私、そして私と家族

■内容

①定住外国人・若者世代からの発信「外国につながる私、そして私と家族」

講師:安富祖 樹里さん(神奈川県鶴見生まれ、日本育ちの日系ブラジル人3世、上智大学ポルトガル語学科4年在学中)

Nguyen Tat Trungさん(インドシナ難民3世として、神戸市で生まれる、東北大学理学研究科博士課程1年在学中)

景山 宙さん(1991年(当時6歳)に四川省から栃木県に移り住む、現在会社員)

②定住外国人・親世代からの発信「日本につながった私、そして私と家族」

講師:王 雁さん(1985年中国大連外国語大学日本語専攻卒業、中国国際旅行社就職。1990年来日。現在大阪府立門真なみはや高等学校中国語教諭、二児の母)

③講演「定住外国人「だから」抱える「家族」の問題とは？」

講師:田中 ネリさん(ラパス市ポリビア共和国で生まれ育ち、18歳で来日した日系2世。臨床心理士として現在千葉メンタルクリニックと、四谷ゆいクリニックに勤務)

④質疑応答から考える「家族」のこと

対談:野沢 慎司さん(明治学院大学 副学長、社会学部教授、専門は家族社会学)・田中ネリさん

※会場に

⑤アンケート記入

・日本に定住する若者世代3名から、また親世代1名から日本に在住するに至った経緯や、経験談、家族との関係などを発表していただいた後、ポリビア出身の臨床心理士田中ネリ氏による講義、さらには「家族社会学」を専門とする社会学者野沢慎司氏が加わって総括、さらに定住外国人の若者世代を含む会場参加者とのディスカッションにより、参加した方々がテーマについての理解を深めることとなった。



(2) 目標の達成状況・成果

●第1回講座は、講座終了時に実施したアンケートにより、全体を通しての満足度や意見をきき、目標の達成状況と成果を確認した。

参加者59名中、アンケート回答者は39名。

1 「定住外国人・若者世代、親世代からの発信」については、「大変役立った」24名、「役立った」12名、無回答2名であった。参加者の満足度の高さがうかがえる。以下のような回答が寄せられている。

・日本に来た人たちの親、子の心の動き、葛藤、それをどう乗り越えていくのか、周囲はそれをどう見守り、支えることができるのか大変勉強になりました。

・自分が将来、子育てをする際、親世代の経験を聞いたことが、とても役に立つのではないかと感じた。

・自分自身も改めて家族について考えることはなかなか無い中で、異国で生きる方々の家族との歴史、家族観について伺い、家族は面倒だったり、大変だったり、辛かったり、しんどいこともたくさんあるけれど、切り離せない自分の根にあるルーツだと思いました

定住外国人の抱える家族の問題を知る機会になると共に、今回のテーマが外国人住民に限らず、参加者それぞれの抱える課題であることへの気付きとなっていることがうかがわれる。また、それぞれの発表者のプレゼンテーションの素晴らしさに圧倒されたという声が多く聞かれた。

2 講演・対談部分については、「大変役立った」16名、「役だった」16名、無回答4名であった。以下のような回答が寄せられている。

・親子関係の心理は、良い気づきを教えてくれた

・私の知る家族、子どもたちの顔を思い浮かべながら聞きました

・家族への支援、子どもへの支援、親への支援と、多重の支援が必要であることが分かりました

田中氏の「子どもの絵から心を読み解く手法」野沢氏により提示された「あいまいな喪失」の概念に言及する回答も多く見られた。主催者側の意図が十分に参加者に伝わっていた。

3 全体的な部分での感想については、「今後、ダイバーシティを実現していくためにも、多文化理解を深めていくためにも、継続して展開していただきたい」「家族のテーマ(子世代+親世代)を扱えるのは、子ども、親の両方の学習支援をしているさぼうと21ならではと思いました。大変勉強になる講座をありがとうございました」など、当会の今後の講座に期待を寄せてくださる声が多かった。

これまで築いてきたネットワークがもとになり、発信力のある多様な魅力的な講師に登壇していただけたことが、今回の講座への高い評価につながったと判断する。

また、明治学院大学「内なる国際化」プロジェクト(教養教育センター・社会学部)との共催での実施も非常に意義のあるものであった。民間団体と大学の連携が、「生活者としての外国人」が生き生きと暮らすことのできる社会づくりに大きく貢献できることを示すことができた。

目標は十分に達成したと判断する。

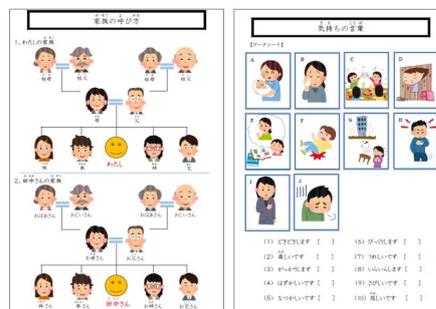
(3) 今後の改善点について

これまで、講座の参加者として主に日本語支援者側の日本人住民を想定していたが、今回の「理解を深める講座」は、外国人住民の方々にもぜひ足を運んでもらいたいと思い、企画を進めた。しかし、外国人住民の方に来場してもらための日時設定や会場の確定が難しかった。また、広報面での工夫もさらに検討が必要と思われる。

第2回の理解を深める講座(ワークショップを兼ねる)は、当会の学習支援室を休みとして、日頃、学習支援を行う場所を会場として実施したことから、大勢の外国人住民が参加しており、日時や会場確定のための、一つの有効な選択肢として考えられる。

また、言葉の問題などで、外国人住民が会場に向いても、通訳がつかない十分に内容を理解することは難しい。多言語の通訳の配置も有効な手段かと思われるが、講座のコンテンツを、講座終了後、より多くの外国人住民に伝える方策を検討することも今後しっかりと考えたい。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称:「にほんごも生活も一歩前進」】			
目的・目標	地域の日本語教室で勉強中の外国人住民、および日本語学習支援者が利用しやすい教材を提供すること 当団体や他団体が作成した様々な教材を有効活用できるような手引書を作成すること		
対象	外国人住民(初級レベル・初中級レベル)・外国人住民の日本語教育支援にあたる方		
教材の内容	<p>A 動画教材「見ればできちゃうシリーズ」 動画教材『見ればできちゃうシリーズ★初級 1目的の場所へ行く』および「付属紙教材」を作成した。 あわせて、動画教『見ればできちゃうシリーズ(導入期)-どこですか』『ミニ場面集～挨拶編～「あいさつplusひとこと』』を作成した。 今年度は初めて映像制作を専門とする「インタナショナル映画(株)」との連携により、映像制作の専門家との協働により作品を完成させた。(「見ればできちゃうシリーズ(初級)-目的の場所へ行く-」のみ)この方向性で動画教材作成を進めることが適当かどうか、次年度以降検討していきたい。</p> <p>B 「体験型初級日本語講座実例集」計10ページ 「体験を通して学ぶ導入期日本語教室」での授業をもとに、体験型初級日本語講座の授業の流れや利用教材をテーマごとにまとめたもの。「授業の流れ」や「語彙集」、「ワークシート」などを備えている。「支援者が見るページ」「学習者と一緒に見るページ」「学習者のページ」で構成されている。昨年度までに作成した教材に、以下を追加作成した。今後も内容を精査し、さらに別のテーマの実例集を増やしていく予定である。 ①「自己紹介ができる(家族の呼び方)」計2ページ ②「自己紹介ができる(自分の国の紹介)」計2ページ ③「自己紹介ができる(カレンダー)」計1ページ ④「欠席の電話がかけられる」計1ページ ⑤「自分の気持ちが伝えられる」計2ページ ⑥「1人で病院へ行ける」の追加(医者の指示/検査の言葉)計2ページ ⑦「薬局で薬が買える」の追加(薬の種類)計1ページ ⑧「薬局で薬が買える」の追加(薬の袋)計1ページ</p> <p>B 「体験型初級日本語講座実例集」 ⑦「音声から学ぶ動詞活用」一覧表10ページ、音声データ20秒×60トラック、1分×32トラック</p> <p>C 「小さいけれど大切な日本の習慣」計1ページ 日本で生活するときに、人間関係を円滑にするために知っているのと役に立つ様々な習慣をテーマとして作成した「初級読解教材」。 すでに作成した教材に、以下を追加作成した。今後も内容を精査し、イラストや写真を加えて、増やしていく予定である。 ①「色々な布」計1ページ</p>		
実施期間	平成28年5月1日～平成29年3月20日	成果物のリンク先	<p>当会ホームページの「教材バンク」にて、平成29年4月中に公開予定。 ※教材バンクのURL: http://support21.or.jp/ouractivities/learning-program/japanese-learning-materials/</p>
作成教材の想定授業時間 コマ数と頁数	<p>A動画教材 1回 0.5～1時間 × 3作品 (付属紙教材あり) B実例集 1回 1時間 × 6回 B実例集(音声から学ぶ動詞) 毎回10分×不特定回 C日本の習慣 1回 0.5～1時間 × 1回</p>	教材の頁数	<p>A動画教材 6分53秒×1作品 動画教材 5分48秒×1作品 動画教材 4分37秒×1作品 B実例集 13頁 B実例集(動詞活用) 10頁 20秒×60トラック、1分×32トラック C日本の習慣 1頁</p>
カリキュラム案活用	「カリキュラム案」の目的、目標の達成を目指し、教材作成を進めている。 「カリキュラム案」「ガイドブック」「教材例集」をテーマ選びや内容検討の際に参考になっている。		
教材の活用方法	<p>全ての教材が「生活」をベースに考えられている。</p> <p>A 動画教材は、初級学習者向け、導入期学習者向けに作られているが、媒介語もなく、日本語もあまりできない学習者を教室に迎えた際に、日本語学習支援者が学習者と一緒に作品を視聴するだけで何かしらの学びがあることを目指して作っている。 動画が活用できない環境の方々もいっしょであろうことから、『目的の場所へ行く』については、付属紙教材を用意した。</p> <p>B 「実例集」は、グループでの「体験型」の日本語学習を想定して作られている。当会作成の『はじめの500語』(無料公開)をあわせて利用するとよい。 「音声から学ぶ動詞のかたち」は1日3個の動詞を扱うことを想定している。「活用編」は「ない形・ます形・辞書形・仮定形・意向形・形」の順に音声が流れる。「丁寧体・普通体」は「～ません・～辞書→～ません・～ない→～ました・～た→～ませんでした・～なかった」の順に音声が流れる。ルールを覚えるのは苦手という学習者も地域の日本語教室にはまみられることから、「耳慣れる」ことを目的に作成した教材である。</p> <p>C 「日本の習慣」は読解教材として利用するほかに、「おしゃべりのネタ」として学習者とボランティアの対話を活性化することが可能である。また、フランス語訳が付されており、日本語を読むことのできない外国人住民も利用できる。(翻訳は徐々に増やしていく予定)</p>		
今後の活用の予定	全ての教材について、ホームページに掲載する予定である。とくに動画教材については、次年度、慎重に検討の上、方向性を定めたいと考えている。 その他の教材については、適宜追加、修正を行ってきたい。		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

本事業の目的は、日本に定住する覚悟を決めた外国人住民(とくに難民)が言葉の学びを通して生活基盤を強固なものとし、個々の「成長」を目ざして日々過ごせるようになること、より多くの日本人住民・先輩外国人住民が、彼らの良き「伴走者」として成長すること、結果として、関わる全ての者たちが多文化共生社会日本の一員として共に手を携え前進していくことである。

今後3年間を目途に、団体がこれまで得た知見、先輩外国人住民の経験、文化庁事業の成果を反映させ、「日本語教育」「人材育成」の具体的なモデルの提示、「現場で使える教材」の提供を進めていきたい。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

「日本語教育」「人材育成」の取り組みについては、参加者からのアンケート結果、運営委員での振り返りをもとに検証する。「教材作成」については、複数名の外国人住民、および日本人ボランティア、運営委員からのコメントをもとに検証する。

当法人が平成23年度以来、文化庁委託事業として継続してきたそれぞれの取り組みは、年を重ねるごとに内容が充実してきており、事業の目的・目標は十分に達成されていると判断する。平成28年度は、これまでの取り組みの成果を、より多くの外国人住民、地域日本語教室ボランティアに向けて提供することに注力した。

■日本語教育については、「体験型初級日本語講座」の内容が充実してきたことから、その成果を「実例集」としてまとめる作業を昨年度から続けている。一つのモデルを提示し、共有を図ることで、今後さらに良い活動が展開していくものと期待される。これは同時に、活動の進め方や日本語学習支援の方法に悩む地域の日本語教室ボランティアに対して活動のヒントを提供できるものであり、その意義も大きい。生活力向上のための参加型講座は、今年度、他団体との連携により、これまで関わりのなかった3つのコミュニティ/地域で実施することができた。大きな成果である。

■人材育成についても、一般の「ボランティア向け講座」と一線を画した内容で継続している。地域での日本語支援の取り組みに有益な講座として常に参加者から高い評価を得ている。今年度は、これまで行ってきたボランティア向け講座を二つに分け、活動経験が少ないボランティア向けの「スキルアップ講座」を、地域日本語教室に出張する形で実施することができた。また、「理解を深める講座」は通常の活動の中で築かれたネットワークをもとに、現場からの発信を大切にしながら進められている。日本人住民と外国人住民が共に受講者となり、特定の課題について共に学び、考える講座を実施できた点、大学との連携が実現した点は高く評価できる。

■教材作成については、3か年の計画の第2年目として、内容の見直しを進めつつ、着々とコンテンツの充実を図っている。方向性の異なる複数の教材の作成を進めている。どの教材も「生活者としての外国人」および地域日本語教室ボランティアにとって使いやすい教材であることを第一義に内容を検討している。

今年度の事業の大きな成果は「他団体(大学や専門家集団を含む)との連携が「日本語教育」「人材育成」「教材作成」それぞれの取組で進んだ点、外国人住民、日本人住民という枠組みを超え、時にはその誰かが情報提供者であったり、受け手であったりしながら、時には同じ課題を共に考え、課題解決のために共に行動する一つの社会の中の仲間同士という意識を強められた点である。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

当会が支援する難民、中国帰国者等の在留期間はより長期化している。「定住する」外国人住民に対する日本語支援を考える際に、「標準的なカリキュラム案」の掲げる目的や目標は常に取り組みの指針となっている。最近の傾向として、日本語学習者が、より「人と付き合う」ことや「余暇を楽しむ」ことを考え始めていることを実感する。そのような外国人住民のニーズや希望に柔軟に対応しながら、日本語教育、人材育成を行い、現場で使える教材を作成していきたい。また、それらを一般に公開することにより、「生活者としての外国人」および地域日本語教室ボランティアにも貢献できることが多々あると確信している。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

平成28年度は様々な団体との連携が進んだ。

「日本語教育・ワークショップ」の実施で、新たに「うさぎママのパトロール教室」、「高田馬場さくらクリニック」、「(株)東京ソワール」等の団体との連携が図られた。また、「ワーカースコレクティブ 生活クラブFPの会」「NPO法人プラス・アーツ」とは当会主催のワークショップだけでなく、他団体主催の講座でも協力を仰いでいる。他のコミュニティ/地域でも、良質の講座を提供することができた。

また、「人材育成」を通じて、様々な地域で活動する日本語支援ボランティアや外国人住民の支援に関わる方々が顔を合わせ、学びを通じてつながりをもっていける意義も大きい。とくに今年度は活動開始から年数の浅い地域日本語教室との協同で、スキルアップ講座を開講することができた。

「教材作成」では、「インタナショナル映画(株)」との連携により、動画教材を完成させることができた。日本語教育の専門家と、映画制作の専門家との協同は、今後の展開が楽しみである。

(5) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

参加者の周知・広報は、当法人のホームページからの発信を中心に行い、関連するメーリングリスト等への投稿を中心に行った。また、過去の講座受講者にも電子メールで呼びかけをするように努めている。

事業成果については、当法人のニュースレターで発信した(平成29年2月発行)ほか、ブログでも報告をUPしている。

<http://support21.or.jp/staffblog/>

(6) 改善点、今後の課題について

平成28年度の事業で見えてきた課題は平成26年度、27年度に通じるものである。「頼りになる先輩住民」が増えているが、所属する地域やコミュニティを超えて外国人住民がつながることはまだ難しい。文化庁事業を受託した団体が、その「つなぎ」役を果たしていけるのではないかと考えている。

また、今年度は日頃の活動を通じて構築してきたネットワークに大いに助けられ、有意義な取り組みを展開することができた。日頃の顔の見える関係づくりを大切にしていきたい。

また、外国人住民が、より主体的に取り組みに関わってくれるような方策を検討していきたい。

(7) その他参考資料

1 案内のチラシ(日本語教室・ワークショップ・スキルアップ講座・理解を深める講座)

2 アンケート(日本語教室最終分・ワークショップ・ブラッシュアップ講座・理解を深める講座最終回分・スキルアップ講座)